

平成 30 年度

新潟大学大学院自然科学研究科

博士前期（修士）課程

M a s t e r ' s P r o g r a m

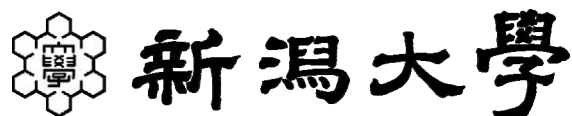
学 生 募 集 要 項

（第 1 次募集・第 2 次募集）

【 一 般 入 試 】

【 社会人特別入試 】

【外国人留学生特別入試】



大学院自然科学研究科

GRADUATE SCHOOL OF SCIENCE AND TECHNOLOGY

NIIGATA UNIVERSITY

一般入試「筆記試験」の受験を希望する方へ

新潟大学大学院自然科学研究科博士前期(修士)課程一般入試の筆記試験外国語[英語]の試験内容は、TOEIC 又は TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) の成績証明書等の提出に基づいて評価します。

なお、該当するコースは次ページのとおりです。

また、該当するコースを受験する方は、成績証明書等の原本を出願時に提出してください。

第1次募集出願希望者

テスト実施日が平成24年6月21日から平成29年6月21日までのもの

第2次募集出願希望者

テスト実施日が平成25年1月11日から平成30年1月11日までのもの

おって、出願時に提出できない場合は、理由書(様式任意)を出願時に提出のうえ、第1次募集にあつては、平成29年8月9日(水)までに、第2次募集にあつては、平成30年2月13日(火)までに出願書類提出先へ提出してください。(期限までに提出されない場合は、失格となります。ただし、第1次募集においては、口述試験受験が認められ、筆記試験等を免除許可された場合は、この限りではありません。)

※ 成績証明書等の再発行については、各実施事務局等へお問い合わせください。

<TOEIC の成績証明書等について>

TOEIC の Official Score Certificate 又は Score Report とします。

<TOEFL の成績証明書等について>

TOEFL の Test Taker Score Report (Examinee' s Score Record) 又は Score Report とします。Official Score Report は受け付けません。

※ 本募集要項上の「TOEIC」とは、平成28年8月5日以降実施分については「TOEIC Listening & Reading Test」のことであり、それ以外の「TOEIC Speaking & Writing Tests」, 「TOEIC Bridge Test」等は、該当しませんので注意してください。

記

TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価する専攻, コース一覧表

専攻名	コース名
数理物質科学	物理学
	化学
	数理科学
材料生産システム	機能材料科学
	素材生産科学
	機械科学
電気情報工学	情報工学
	電気電子工学
	人間支援科学
生命・食料科学	基礎生命科学
	応用生命・食品科学
	生物資源科学
環境科学	自然システム科学
	流域環境学
	社会基盤・建築学
	地球科学
	災害環境科学

【入 試 日 程】

◇第1次募集

事前資格審査申請期限 (該当者のみ)	平成29年6月7日(水)
事前資格審査結果通知 (該当者のみ)	平成29年6月14日(水)
出 願 期 間	平成29年6月15日(木)～6月21日(水)【期間内必着】
受験票送付(予定)	一般入試口述試験受験許可者 平成29年7月4日(火) 上記以外の志願者 平成29年7月28日(金)
試 験 日	一般入試口述試験 平成29年7月13日(木) 上記以外の試験 平成29年8月18日(金)
口 述 試 験 結 果 通 知	平成29年7月28日(金)
合 格 発 表	平成29年9月6日(水) 午前10時
入 学 手 続	平成30年3月26日(月)～3月27日(火)

◇第2次募集

事前資格審査申請期限 (該当者のみ)	平成29年12月1日(金)
事前資格審査結果通知 (該当者のみ)	平成29年12月19日(火)
出 願 期 間	平成30年1月5日(金)～1月11日(木)【期間内必着】
受験票送付(予定)	平成30年1月30日(火)
試 験 日	平成30年2月20日(火)
合 格 発 表	平成30年3月7日(水) 午前10時
入 学 手 続	平成30年3月26日(月)～3月27日(火)

新潟大学志願者への入学検定料免除について

新潟大学では、災害等の被災者の経済的負担を軽減し、進学機会の確保を図るため、入学検定料免除の特別措置を行います。

免除の対象となる災害及び被災地域など、免除に関する詳細については、本学ホームページをご覧ください。

○新潟大学ホームページ

URL <http://www.niigata-u.ac.jp/>

目 次

I	大学院自然科学研究科【博士前期課程】における教育研究の目的及び 各専攻のアドミッション・ポリシー・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	一般入試・・・・・・・・・・・・・・・・	7
III	社会人特別入試・・・・・・・・・・・・・・・・	29
IV	外国人留学生特別入試・・・・・・・・・・・・・・・・	35
	Entrance Examination for International Students・・・・・・・・	41
V	各入試共通事項	
	○ 出願資格の審査（別紙1及び別紙2）・・・・・・・・	49
	○ コースの連絡先教員一覧表・・・・・・・・	51
VI	自然科学研究科の概要（博士前期課程）	
	(1) 専攻・コースの概要・・・・・・・・	59
	(2) 所属教員・研究内容一覧・・・・・・・・	65

本研究科所定用紙（出願書類）

- ・ 入学願書・受験票・写真票・履歴書・振込依頼書（共通）
- ・ 口述試験受験資格に関わる証明書（1）（一般入試・第1次募集用）
- ・ 口述試験受験資格に関わる証明書（2）（一般入試・第1次募集用）
- ・ 受験承諾書（一般入試・外国人留学生特別入試用）
- ・ 入学確約書（一般入試・第1次募集用）
- ・ 承諾書（社会人特別入試用・長期履修学生用）
- ・ 研究業績書（共通）
- ・ 研究計画書（社会人特別入試用）
- ・ 入学試験出願資格認定審査調書（共通）
- ・ 研究経過報告書（共通）
- ・ 封筒

For International Students

- ・ Consent for Taking Examination
- ・ Research Achievement Report
- ・ Application Form for Eligibility Screening of Entrance Examination
- ・ Research Progress Report

(注) 平成29年10月入学の学生募集要項は、別途作成しています。

I

II

III

IV

V

VI

I 大学院自然科学研究科【博士前期課程】における
教育研究の目的及び
各専攻のアドミッション・ポリシー

I 大学院自然科学研究科【博士前期課程】における教育研究の目的及び各専攻のアドミSSION・ポリシー

○ 教育研究の目的

自然科学研究科は理学・工学・農学の分野を含む総合型の区分制大学院として5年一貫の教育を重視し、優れた研究能力と幅広い視野をもった創造性豊かな人材を養成することを目的とする。

博士前期課程は、各専攻における教育研究を通じて、専門分野に関する専門的知識及び関連分野の基礎的素養を修得させ、以下の能力を備えた人材の養成を教育目標とする。

- (1) 自然・社会・人類に対する倫理的な判断能力
- (2) 基礎理論・技術を理解し、応用する能力
- (3) 課題を発見し、解決する能力
- (4) 学会発表を含むコミュニケーション能力
- (5) 定められた期間で報告する能力

博士前期課程の各専攻は、次に掲げる教育研究を行う。

- (1) 数理物質科学専攻は、数学系、物理学系及び化学系の分野で構成し、自然界の基本法則、宇宙、物質の性質や反応機構の解明と新素材・新物質の創製及び数理現象に関する教育研究を行う。
- (2) 材料生産システム専攻は、材料系、化学系及び機械系の分野で構成し、先端材料の創製、新機能・高機能性材料の開発、材料評価、生産プロセス及び材料生産のための機械科学に関する教育研究を行う。
- (3) 電気情報工学専攻は、高度情報社会、省エネルギー社会、高福祉社会に貢献する情報工学、電気電子工学及び人間支援科学の分野で構成し、情報通信工学、知能情報科学、高効率エネルギー、電子デバイス、ナノテクノロジー、センシング、医用生体工学及び福祉工学に関する教育研究を行う。
- (4) 生命・食料科学専攻は、基礎生命科学、応用生命・食品科学、生物資源科学の分野で構成し、生命原理を解き明かす生物学の基礎から、農学とその関連部門での幅広い応用科学に関する教育研究を行う。
- (5) 環境科学専攻は、理学、工学及び農学等の専門領域を有機的に複合した分野で構成し、多面的に地球的規模及び地域社会の環境問題に取り組み、既成の学問領域の枠組みを越えた総合的視点に立った環境科学に関する教育研究を行う。

○ 数理物質科学専攻アドミッション・ポリシー

【教育理念・目標】

数理物質科学専攻は、数学系、物理学系及び化学系の分野で構成し、自然界の基本法則、宇宙、物質の性質や反応機構の解明と新素材・新物質の創製及び数理現象に関する教育研究を行います。また、物理学の教授法や概念形成に関する物理教育研究も行います。

【教育内容・特色】

本専攻は、さまざまな自然構造の法則の探求や、凝縮物質の性質や反応の機構解明と新素材の探求、さらに自然界や社会の諸現象の数理的な解明に対しての探求を最も基本的レベルからの教育研究で行い、科学技術上の課題に自ら能動的に対処できる幅広い見識と独創性に富んだ人材育成を図ります。また、後期課程に進学してさらなる研究能力を身に付け科学技術の先端基礎分野や数理科学分野で活躍できるための専門的先端的学問分野の基礎教育を行います。物理教育学の分野では、物理学の内容に関する深い見識に基づき、学習者の概念形成を促す効果的な教授法の開発とこれが実践できる人材育成を図ります。

【求める学生像】

研究者を志す探究心に富んだ人、最新の研究を的確に把握し、かつ実践できる能力を身につけ産業界で活躍を目指す人、教育、科学技術行政に携わる意欲のある人。入学希望コースに対応する学科などで卒業レベルの基礎学力を習得し、十分な英語力（科学・技術情報の収集・解析・発信のための基礎的スキル）を有する人。

【入学者選抜の基本方針】

〔一般入試〕

・学部課程で学んだ知識をさらに深め自然科学を生かした専門的職業人を志す、高い勉学意欲を有する人、および学部で学んだ知識を基礎に、新たな知識を学びこれを有効に活用する手法を習得し、自然科学の基礎分野、数理科学分野または物理教育学分野での活躍を目標とする知的好奇心にあふれ強い意志をもつ人を選抜します。

〔外国人留学生特別入試〕

・一般入試の事項に加えて、入学希望コースでの学習に支障ない基礎学力（当該コースに対応する学部卒業以上の資格あるいはこれと同等以上の学力）を有し、日本語あるいは英語による必要最小限のコミュニケーションの能力を有する人を選抜します。

〔社会人特別入試〕

・学部課程で学んだ知識と社会人としてのキャリアを基礎に、新しい知識を学びこれを積極的に活用する手法を習得し、専門的職業人としてのキャリアアップや自然科学・技術の新たな分野に進む勉学意欲と自主努力を行う強い意志をもつ人を選抜します。

○ 材料生産システム専攻アドミッション・ポリシー

【教育理念・目標】

材料生産システム専攻は、材料系、化学系及び機械系の分野で構成し、先端材料の創製、新機能・高機能性材料の開発、材料評価、生産プロセス及び材料生産のための機械科学に関する教育研究を行います。

【教育内容・特色】

本専攻では、豊かな人間性とバランスのとれた自然観を身につけ、材料生産システムに関わる学際的な領域において幅広く深い学識と技術を備え、高度の専門的な職業を担うための卓越した能力を有する人材を養成します。

【求める学生像】

入学に際しては、自然系の学部基礎教育（理学，工学，農学など）を修得していることを必要とします。本専攻においては学際化が求められることから、数学，物理，化学などの自然科学の基礎学力を習得し、専門とする分野の基礎学力または専門に関わる幅広い基礎学力を有し、国際性・社会性を修得するに必須なコミュニケーション能力を持ち、強い勉学意欲を有することが必要です。学内外を問わず材料科学，生産・加工技術に志のある学生は積極的に受け入れます。さらに，社会人等他分野からの受け入れに関しても柔軟に対応します。

【入学者選抜の基本方針】

[一般入試]

学部課程で学んだ知識をさらに深め自然科学を生かした専門的職業人を志す，高い勉学意欲を有する人。または，学部課程で学んだ知識を基礎に，新たな知識を学びこれを有効に活用する手法を習得し，自然科学の基礎分野での活躍を目標とする知的好奇心にあふれ強い意志をもつ人を選抜します。

[外国人留学生特別入試]

一般入試の事項に加えて，入学希望コースでの学習に支障ない基礎学力（当該コースに対応する学部卒業以上の資格あるいはこれと同等以上の学力）を有し，日本語あるいは英語による必要最小限のコミュニケーションの能力を有する人を選抜します。

[社会人特別入試]

学部課程で学んだ知識と社会人としてのキャリアを基礎に，新しい知識を学びこれを積極的に活用する手法を習得し，専門的職業人としてのキャリアアップや自然科学・技術の新たな分野に進む勉学意欲と自主努力を行う強い意志をもつ社会人を選抜します。

○ 電気情報工学専攻アドミッション・ポリシー

【教育理念・目標】

電気情報工学専攻は、高度情報社会、レジリエントな社会インフラ、高福祉社会の確立に貢献する情報工学、電気電子工学及び人間支援科学の分野で構成し、情報ネットワーク工学、知能情報科学、数理情報、エネルギー工学、電子材料工学、光センシング、医用生体工学及び福祉工学に関する教育研究を行います。

【教育内容・特色】

数学、物理などの自然科学の基礎学力と社会性・国際性を身に付けるために必須なコミュニケーション能力を有し、情報科学、情報通信、電気電子工学、機械工学、医療工学のいずれかの専門とする分野において、予備知識と専門的学部教育の経験を有し、これらの分野において、教育・研究・開発・設計・製造・企画・管理など知的で創造的な業務に従事する高度な専門的職業人となることを目標として、深い専門的知識と幅広い視野や豊かな人間性を身につけるため、高い勉学・研究意欲と計画、自主努力を行う強い意思をもつ者の入学を期待します。

【求める学生像】

電気情報工学専攻では、情報工学あるいは電気電子工学もしくは人間支援科学等に関する学部卒業程度の基礎学力を有し、以下のような資質と意欲をもつ人の入学を広く募ります。

- ・技術者や研究者として高度な専門的能力と見識を身につけ、工学を通して社会に貢献しようとする人。
- ・専門分野における新たな知識を、自主的かつ計画的に学ぶ意欲と能力を有する人。
- ・社会が直面する諸問題に関心を持ち、技術者・研究者として高い倫理感を持って問題の解決を目指す人。
- ・学んだ知識を活用し国際的に活躍することを希望する人。

【入学者選抜の基本方針】

[一般入試]

- ・大学卒業レベルの基礎学力を持つとともに、専門分野に関連する科目への高い理解度を持つ人を選抜します。
- ・個別学力検査では、外国語（英語）、専門科目（入学希望コース別）を課し、電気情報工学を学ぶ上で基礎となる事項への理解度を評価します。ただし、外国語の試験は実施せず、公的語学検定の結果により評価します。
- ・面接では、勉学の計画や意欲について評価します。

[外国人留学生特別入試]

- ・大学卒業レベルの基礎学力を持つとともに、専門分野に関連する科目への高い理解度を有し、日本語あるいは英語による必要最小限のコミュニケーション能力を有する人を選抜します。選抜は、個別学力検査、面接及び出願書類を総合して行います。
- ・個別学力検査の専門科目では、入学希望コースでの学習に支障のない基礎学力（当該コースに対応する学部卒業以上の資格あるいはこれと同等以上の学力）を評価します。
- ・面接では、勉学の計画や意欲について評価します。

[社会人特別入試]

- ・入学者の選抜は、小論文、面接及び出願書類を総合して選抜します。
- ・小論文では、これまでの業務実績及びこれからの勉学の計画について評価します。
- ・面接では、専門的職業人としてのキャリアアップや自然科学・技術の新たな分野に挑戦する勉学意欲を評価します。

○ 生命・食料科学専攻アドミッション・ポリシー

【教育理念・目標】

生命・食料科学専攻は、基礎生命科学、応用生命・食品科学、生物資源科学の3つのコースで構成し、生命原理を解き明かす生物学の基礎から、農学とその関連部門での幅広い応用科学に関する教育研究を行います。

【教育内容・特色】

本専攻は、生命の基本原理の解明、生物が持つ様々な機能の解析と応用、地球環境変動の生態系への影響や予想される食料不足などの深刻化する諸問題への対応、などに向けて大きな関心と期待が集まっている基礎生物学と応用生物学からなります。この2つの生物学分野を有機的に融合させ、ゲノムからポストゲノムへと展開する現代の生命科学の潮流をふまえて、生命科学の基礎から食料生産、バイオテクノロジー、さらにその関連産業にいたる幅広い生命科学分野の教育・研究を行うことを目的としています。博士前期課程では、基礎生命科学領域の研究者、生命科学の基礎と先端的知識をもつ教育者、生物の有益な機能の開発を目指す技術者、食品・動植物素材の加工や安全性に関する技術者および研究者などの社会的に要請の高まっている人材を養成します。

【求める学生像】

〔一般入試〕

生命・食料科学分野に関して大学卒業レベルの基礎学力を有し、

- ・生命現象の根源的理解、新技術の開発、地域の産業や環境の改善に対応できる専門的能力と学識を身につけたいと考えている人。
- ・農業・食品産業分野に高い関心と知的好奇心に富み、自由な発想・行動力と強い責任感を併せ持ち、周囲の人々とともに自己研鑽に励み、高度な専門的技術と学識を身につけたいと考えている人。

〔外国人留学生特別入試〕

一般入試の事項に加えて、日本語あるいは英語による必要最小限のコミュニケーションの能力を有する人。

〔社会人特別入試〕

一般入試の事項に加えて、社会人としてのキャリアを基礎に、新しい知識を学びこれを積極的に活用する手法を習得し、専門的職業人としてのキャリアアップや自然科学・技術の新たな分野に進む勉学意欲と自主努力を行う強い意志をもつ人。

【入学者選抜の基本方針】

〔一般入試〕

大学卒業レベルの基礎学力を持つとともに、専門分野に関する科目への高い理解度をもち、自然科学を生かした専門的職業人を志す、高い勉学意欲を有する人を選抜します。なお、特に優秀と認められた者には筆記試験を免除し、口述試験を課します。筆記試験では、専門分野に関する科目の試験によって学力を評価し、公的語学検定（TOEIC又はTOEFL）の成績によって英語の能力を評価します。口述試験及び面接では、専門分野に関連する科目への理解度と、研究計画や研究・勉学に対する意欲を評価します。

〔外国人留学生特別入試〕

大学卒業レベルの基礎学力を持つとともに、専門分野に関する科目への高い理解度をもち、高い勉学意欲を有する人を選抜します。学力検査及び面接によって、入学希望コースでの学習に支障のない基礎学力と、日本語あるいは英語によるコミュニケーション能力を評価します。

〔社会人特別入試〕

大学卒業レベルの基礎学力を持つとともに、専門分野に関する科目への高い理解度をもち、高い勉学意欲を有する人を選抜します。小論文と面接によって、入学希望コースでの学習に支障のない基礎学力と勉学意欲を評価します。

○ 環境科学専攻アドミッション・ポリシー

【教育理念・目標】

環境科学専攻は、理学、工学及び農学等の専門領域を有機的に複合した分野で構成し、多面的に地球的規模及び地域社会の環境問題に取り組み、既成の学問領域の枠組みを越えた総合的視点に立った環境科学に関する教育研究を行います。

【教育内容・特色】

環境科学専攻は、地球規模から北東アジアの一角の日本海や新潟地域、さらに都市や住まいまでを広く研究対象として、エネルギー循環過程のメカニズム、野生生物の多様性、森林科学、農業農村環境工学、農業機械システム学、社会基盤工学、建築学、地球科学、災害科学に関する先端的・学際的で超域的な研究を行うことを目的とします。これにより地球や地圏・水圏・生物圏などの構造を探求する優れた知識、自然環境と人間社会との相互関係についての広い視野や専門知識、および都市・農山村環境を創出する能力を持った技術者、公務員、教員などの人材の養成を行います。また、環境問題の特性から、従来の思考にとらわれない高い課題探求力と問題解決能力、倫理観をもって社会に貢献でき、外国人研究者との専門的知見において十分意志疎通のできる国際性豊かな人材を育てます。

【求める学生像】

学部教育において本専攻に対応する学問分野を専修した学生に限定せず、広く人文・社会科学を専修した学生も含め、基本的な情報収集、解析および発信の能力をもち、環境にかかわる問題に積極的に関わっていこうとする学生・社会人を受け入れます。これに加えて、後期課程に進学して更なる研究能力を身に付けて先端基礎分野で活躍しようと専門学問分野に深い関心を持つ人材の育成も行います。

【入学者選抜の基本方針】

[一般入試]

選抜する人物は、学部課程で学んだ知識をさらに深め自然科学を生かした専門的職業人を志し、十分な基礎的知識・能力、および高い勉学意欲を有する学生。または、学部課程で学んだ知識を基礎に、新たな知識を学びこれを有効に活用する手法を修得し、自然科学の分野での活躍を目標とする知的好奇心にあふれ強い意志をもつ学生・社会人を選抜します。

個別学力検査では、英語、専門科目を課し、それぞれのコースに対応した学問分野を学ぶ上で基礎となる事項に関する理解度を評価します。面接では、修士課程での研究計画や研究に対する意欲について評価します。

[外国人留学生特別入試]

一般入試の事項に加えて、入学希望コースでの学習に支障ない基礎学力（当該コースに対応する学部卒業以上の資格あるいはこれと同等以上の学力）を有し、日本語あるいは英語による必要最小限のコミュニケーションの能力を有する学生・社会人を選抜します。

[社会人特別入試]

学部課程で学んだ知識と社会人としてのキャリアを基礎に、新しい知識を学びこれを積極的に活用する手法を修得し、専門的職業人としてのキャリアアップや自然科学・技術の新たな分野に進む勉学意欲と自主努力を行う強い意志をもつ社会人を選抜します。

II 一般入試

【一 般 入 試】

1 募集人員

【第1次募集】

専攻名	募集人員	専攻名	募集人員
数理物質科学専攻	63人	生命・食料科学専攻	70人
材料生産システム専攻	143人	環境科学専攻	89人
電気情報工学専攻	122人	計	487人

(注1) 募集人員には、各専攻とも社会人及び外国人留学生の特別入試の募集人員を含みます。

(注2) 出願に際しては、必ず連絡先教員(51ページ参照)又は志望するコースの担当教員(65ページ参照)に教育研究内容等について問い合わせの上、出願してください。

【第2次募集】

専攻名	募集人員	専攻名	募集人員
数理物質科学専攻	若干人	生命・食料科学専攻	若干人
材料生産システム専攻	若干人	環境科学専攻	若干人
電気情報工学専攻	若干人	計	若干人

(注1) 出願に際しては、必ず連絡先教員(51ページ参照)又は志望するコースの担当教員(65ページ参照)に教育研究内容等について問い合わせの上、出願してください。

(注2) 各専攻とも、コースによっては受入れできない場合があります。

2 出願資格

- (1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第83条に定める大学を卒業した者及び平成30年3月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成30年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者(【注1】参照)
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者(【注1】参照)
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び平成30年3月までに授与される見込みの者(【注1】参照)
- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、当該者をその後に本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者(【注1】参照)

- (10) 平成30年3月31日までに学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学する予定の者で本研究科が定める単位を優秀な成績で修得する見込みがあると認めたもの及び外国の学校教育における15年の課程を修了した者（【注2】参照）
- (11) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成30年3月31日までに22歳に達する者（【注3】参照）

【注1】 前記(3), (4), (6)又は(9)の出願資格によって出願する者は、自然科学研究科学務係（☎(025)262-7387）に問い合わせの上、同係の指示する出願書類と共に、返信用封筒（長形3号の封筒に郵便切手372円分を貼り、志願者の住所、氏名及び郵便番号を明記したもの）を提出し、事前審査を受けてください。書類等の提出期限及び事前審査の結果通知日は、次のとおりです。

【第1次募集】 書類等は、**平成29年6月7日（水）まで**（必着）に提出してください。
事前審査の結果は、平成29年6月14日付けで本人あて通知します。

【第2次募集】 書類等は、**平成29年12月1日（金）まで**（必着）に提出してください。
事前審査の結果は、平成29年12月19日付けで本人あて通知します。

【注2】 前記(10)の出願資格によって出願する者は、別紙1（49ページ）を参照してください。

【注3】 前記(11)の出願資格によって出願する者は、別紙2（50ページ）を参照してください。

3 出願期間

【第1次募集】 平成29年6月15日（木）から平成29年6月21日（水）まで（期間内必着）

【第2次募集】 平成30年1月5日（金）から平成30年1月11日（木）まで（期間内必着）

4 出願手続

(1) 出願方法

志願者は、本要項に添付の封筒に次の書類等を入れ、出願期間内に持参又は郵送してください。

(2) 出願書類等の提出先

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地

新潟大学自然科学研究科学務係 ☎(025)262-7387

持参の場合：受付時間は、9時から17時までです。（土・日曜日は、受付を行いません。）

郵送の場合：必ず書留速達で郵送してください。

(3) 出願書類等

〔志願者全員が提出するもの〕

書 類 等	摘 要
① 入 学 願 書 受 験 票 写 真 票 履 歴 書	<ul style="list-style-type: none"> 本要項に添付の所定用紙を使用してください。 なお、「検定料納付証明書（新潟大学提出用）」を所定欄に確実に貼ってください。（※取扱金融機関の収納印が押印されていることを必ず確認してください。） 写真票の所定箇所に写真（縦4cm、横3cmの上半身・無帽・正面向きで、出願前3か月以内に撮影したもの）を貼ってください。 受験時に眼鏡を使用する者は、眼鏡をかけて撮影してください。
② 卒業証明書又は 卒業見込証明書	<ul style="list-style-type: none"> 出身（在籍）大学長又は学部長が作成したものを提出してください。 8ページの「2出願資格」の(10)によって出願する者は、提出不要です。
③ 学業成績証明書	<ul style="list-style-type: none"> 出身（在籍）大学長又は学部長が作成し、厳封したものを提出してください。 短期大学又は高等専門学校の専攻科の修了者は、短期大学又は高等専門学校の成績証明書と専攻科の成績証明書を提出してください。

<p>④ TOEIC, TOEFL等の成績証明書等の原本（スコア）</p>	<p>新潟大学大学院自然科学研究科博士前期課程（修士）課程一般入試の筆記試験外国語[英語]の試験内容は、TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) の成績証明書等の提出に基づいて評価します。</p> <p>TOEIC (TOEIC-IP (団体特別受験制度)を含む。) の場合は、Official Score Certificate 又は Score Report を提出してください。</p> <p>TOEFLの場合は、TOEFL-iBT, TOEFL-PBTのTest Taker Score Report 又は Examinee's Score Record (Official Score Report は受け付けません。) を提出してください。TOEFL-ITPの場合はScore Reportを提出してください。</p> <p>(注)</p> <p>(1) スコアは願書提出期限から5年以内のものに限ります。</p> <p>(2) 出願時にスコアを提出できない場合は、理由書（様式任意）を出願時に提出の上、第1次募集にあつては、平成29年8月9日（水）までに、第2次募集にあつては、平成30年2月13日（火）までに願書類提出先に提出してください。期限までに提出されない場合は、失格となります。ただし、第1次募集においては、口述試験受験が認められ、筆記試験等を免除許可された場合は、この限りではありません。</p> <p>(3) 第1次募集において不合格となった者で、第2次募集に出願する場合は、第1次募集の際に提出したスコアを使用することもできるので、申し出てください。</p>
<p>⑤ 検定料納付証明書</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本要項に添付の「振込依頼書（新潟大学大学院自然科学研究科博士前期課程入学試験検定料）・振込金及び手数料領収書（志願者保存）・検定料納付証明書（新潟大学提出用）」に必要事項を記入し、以下の点に留意のうえ、最寄りの金融機関（ゆうちょ銀行及び郵便局を除く。）に持参し、窓口で検定料30,000円を振り込んでください。その後、入学願書の所定欄に検定料納付証明書（新潟大学提出用）を貼って提出してください。 なお、振込手数料は、志願者本人の負担となります。 ① 依頼人氏名欄は、必ず志願者本人の氏名を記入してください。 ② 検定料の振込みは、下記の期間内に必ず行ってください。 (※土・日曜日、祝日の振込みはできません。) <p>【第1次募集】平成29年6月8日（木）から6月21日（水）【15時】まで 【第2次募集】平成29年12月20日（水）から平成30年1月11日（木）【15時】まで</p> <p>③ ATM（現金自動預払機）での振込みはできません。</p>
<p>⑥ 返信用封筒</p> <p>【第1次募集】 3枚作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 受験票在中（長形3号） 合格通知書在中（長形3号） 入学手続き類在中（角形2号） ※（口述試験関係通知書在中） <p>【第2次募集】 2枚作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 受験票在中（長形3号） 入学手続き類在中（角形2号） 	<ul style="list-style-type: none"> 本要項に添付の返信用封筒を使用してください。 封筒には、志願者の郵便番号、住所及び氏名を記入してください。 「受験票在中」（長形3号）及び※「口述試験関係通知書在中」（長形3号）には、郵便切手 372円分を貼ってください。 「合格通知書在中」（長形3号）及び「入学手続き類在中」（角形2号）には、郵便切手を貼る必要はありません。 <p>(注) ※ 下記の「5選抜方法」(1)の口述試験受験希望者は、「口述試験関係通知書在中」（長形3号）を作成し、合計4枚提出してください。</p> <p>※ 転居等で受験票や合格通知書が未着となることがないように変更があった場合は、速やかに願書類等提出先に申し出てください。</p>

〔該当する志願者のみが提出するもの〕

書 類 等	摘 要
⑦ 受験承諾書	<ul style="list-style-type: none"> 教育機関、研究機関や地方自治体、企業等に在職している者が在職のまま入学を予定している者は、勤務先所属長の作成した受験承諾書（本要項に添付の所定用紙）を提出してください。 合格後退職して入学する予定の場合は、本人が退職する予定であることを明記した文書をもって受験承諾書に代えます。その場合は、入学手続き時に退職証明書（又は退職見込証明書）が必要です。
⑧ パスポートの写し又は在留カードの写し	<ul style="list-style-type: none"> 外国籍を有する者は、パスポートの写し（顔写真ページおよび在留資格が記載されているページ）又は在留カードの写し（表裏両面）を提出してください。
⑨ 学位授与証明書	<ul style="list-style-type: none"> 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者で、それを出願資格とする場合のみ提出してください。
⑩ 短期大学又は高等専門学校 の専攻科の修了（見込み） 証明書及び学士の学位授与申請書の 受理証明書（又は学士の学位授与を大学改革 支援・学位授与機構に申請予定である旨 の証明書）	<ul style="list-style-type: none"> 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与される見込みの者は、提出してください。（7ページの「2出願資格」の(2)後段該当者） 専攻科の修了（見込み）証明書及び学位授与申請予定の証明書は、出身（在籍）短期大学長又は高等専門学校長が作成したものを提出してください。 学位授与申請書の受理証明書は、大学改革支援・学位授与機構が証明したものを提出してください。
⑪ 口述試験受験資格に関わる 証明書（1）、（2）	<ul style="list-style-type: none"> 下記の「5選抜方法」(1)の口述試験（第1次募集のみ）の受験を希望する者のみ提出してください。 本書式と同内容が記述されており、押印がされているものであれば、別様式でも可とします。
⑫ 入学確約書	<ul style="list-style-type: none"> 下記の「5選抜方法」(1)の口述試験（第1次募集のみ）の受験を希望する者のみ提出してください。 本要項に添付の所定用紙を提出してください。

- [注] (1) 出願書類等に不備がある場合には、受理しないことがあります。
 (2) 英語以外の外国語で作成された書類等には、日本語訳を必ず添付してください。
 (3) 健康診断書の提出を求めていますので、筆記試験及び口述試験の受験及び修学上の配慮を必要とする志願者は、出願前に申し出てください。
 (4) 出願書類等については、本研究科入学者選抜において必要なため提出いただくものであり、これによって得た情報を、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律第9条に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で使用又は第三者に提供することはありません。

5 選抜方法

入学者の選抜は、次の(1)又は(2)の結果並びに出願書類の審査を総合して行います。

- (1) 口述試験（第1次募集のみ）
 (2) 筆記試験及び面接

（注1） (1)の口述試験（第1次募集のみ）について

この試験は、第1次募集において、出願書類の審査並びに口述試験の結果により、成績優秀と認められた者について、(2)の「筆記試験及び面接」を免除するもので「選抜の合格者となる」ことを意味します。

口述試験の受験資格は、以下のとおりです。

1) 成績順位が定められている大学学部学科等からの受験生にあつては、当該在籍学科等の成績順位を上位1/2以内とする。口述試験受験希望者は、様式X「口述試験受験資格に関わる証明書(1)」を提出してください。

2) 成績順位が定められていない大学学部学科等からの受験生にあつては、総修得単位に占める「優」相当以上の評価を1/2以上とする。口述試験受験希望者は、様式Y「口述試験受験資格に関わる証明書(2)」を提出してください。

(注2) **口述試験の受験希望者は、合格した場合には必ず入学することを確約しなければなりません。受験希望者は、入学願書の所定欄に希望「有」を表示してください。**

なお、「2出願資格」(7ページ)の(1)及び(2)で出願する志願者以外は、口述試験の受験は希望できません。

受験の可否については、平成29年7月4日(火)付けで通知します。

口述試験の出題範囲については、志望するコースの担当教員又は連絡先教員(51ページ参照)に照会してください。

口述試験は、全専攻で実施し、口述試験合格者(筆記試験免除許可者)は、各専攻とも募集人員の60%以内です。

(注3) (2)の「筆記試験及び面接等」については、それぞれの専攻(コース等)で課された試験のすべてを受験してください。一部でも欠席した者は、合格者としません。

6 試験日程・実施科目等

(1) 試験日程

【第1次募集】

① 口述試験

平成29年7月13日(木)に行います。詳細については、受験票送付の際に通知します。

なお、口述試験結果については、平成29年7月28日(金)付けで受験者全員に通知します。掲示による発表は、行いません。

また、筆記試験(及び面接)免除許可者の「合格通知」は、第1次募集合格発表日の平成29年9月6日(水)に送付します。

② 筆記試験及び面接

平成29年8月18日(金)

【第2次募集】

筆記試験及び面接

平成30年2月20日(火)

※ 筆記試験及び面接の実施日時等は、次の(2)の「専攻別実施科目等」に記載のとおりです。

(2) 実施科目等

・ 専攻別実施科目等

専攻別の実施科目・日時は、次に示すページに記載のとおりです。

募集区分	専攻	掲載ページ
第1次募集	数理物質科学専攻	12
	材料生産システム専攻	13
	電気情報工学専攻	15
	生命・食料科学専攻	16
	環境科学専攻	17

募集区分	専攻	掲載ページ
第2次募集	数理物質科学専攻	19
	材料生産システム専攻	20
	電気情報工学専攻	22
	生命・食料科学専攻	23
	環境科学専攻	24

(注) 実施科目・日時については、各専攻（コース等）により異なりますので注意してください。

【第1次募集】 筆記試験及び面接の実施日 平成29年8月18日（金）

数理物質科学専攻

<物理学コース>

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [物理学]	9:00~11:00	力学・解析力学, 電磁気学, 量子物理学, 熱・統計物理学を全問解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL(TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00~	物理学の基礎的内容に関する質問をすることがあります。	

[第1次募集] 筆記試験及び面接の実施日 平成29年8月18日(金)

<化学コース>

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [化学]	9:00~11:00	無機・分析化学, 有機・生化学, 物理化学の 3問を解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL(TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出願 書類を参照して ください。
面接	13:00~	特記事項なし	

※注 「5選抜方法」(1) 口述試験の受験希望者で、口述試験の受験を許可されたものは「志望理由書」を提出してください。なお、詳細は、受験可否通知時に連絡します。

<数理科学コース>

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [数学]	9:00~11:00	線形代数, 微積分, 解析, 代数, 幾何, 情報科 学から出題します。3問を選択し, 解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL(TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出願 書類を参照して ください。
面接	13:00~	特記事項なし	

材料生産システム専攻

<機能材料科学コース(物性系)>

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [材料科学 (物性系)]	9:00~12:00	量子物理学, 熱・統計物理学, 半導体工学, 固 体物性の4問から3問を選択し, 解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL(TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出願 書類を参照して ください。
面接	13:00~	特記事項なし	

[第1次募集] 筆記試験及び面接の実施日 平成29年8月18日(金)

<機能材料科学コース(開発系)>

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [材料科学 (開発系)]	9:00~11:00	次の8科目の中から、あらかじめ届け出た1組となっている2科目を解答します。 なお、届け出る科目名は、入学願書の「受験する専門科目」欄に専門科目名とともに記載してください。 [電気化学・物理化学], [高分子化学・高分子材料工学], [生物化学工学・生物材料工学], [材料評価学・機能材料力学/組織学]	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL(TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00~	特記事項なし	

<素材生産科学コース(応用化学系)>

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [応用化学]	9:00~11:00	次の5科目の中から、あらかじめ届け出た3科目を解答します。 なお、届け出る科目名は、入学願書の「受験する専門科目」欄に記載してください。 [無機化学], [分析化学], [物理化学], [有機化学], [高分子化学]	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL(TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00~	特記事項なし	

<素材生産科学コース(化学工学系)>

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [化学工学]	9:00~11:00	化学工学基礎, 反応工学, 単位操作, 移動現象の4問全てを解答。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL(TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00~	口頭で化学工学の知識, あるいは化学工学に関連する分野の英語の知識を問うことがあります。	

[第1次募集] 筆記試験及び面接の実施日 平成29年8月18日(金)

<機械科学コース>

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [機械科学]	9:00~11:00	材料力学, 流体力学, 熱力学, 機械力学の各分野から1問出題し, 全問解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL(TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00~	特記事項なし	

電気情報工学専攻

<情報工学コース>

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [情報工学]	9:00~11:00	形式言語とオートマトン, デジタル回路, プログラミング, コンピュータネットワーク, 線形代数, 電磁気学の6問出題, 3問を選択し, 解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL(TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00~	特記事項なし	

<電気電子工学コース>

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [電気電子工学]	9:00~11:00	電磁気, 電気回路の2問を解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL(TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00~	特記事項なし	

<人間支援科学コース>

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目	9:00~11:00	微分積分・線形代数, 電気回路, プログラミング, 人間工学の4問を出題し, 全て解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL(TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00~	特記事項なし	

【第1次募集】 筆記試験及び面接の実施日 平成29年8月18日（金）

生命・食料科学専攻

＜基礎生命科学コース＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [生物学]	9:00～11:00	3問出題し、全問解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00～	特記事項なし	

＜応用生命・食品科学コース＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目	9:00～11:00	次の10科目の中から、あらかじめ届け出た1科目を解答します。 生物化学, 微生物学, 生物有機化学, 畜産物利用学, 食品化学, 栄養制御学, 食品製造学, 植物栄養学, 土壌学, 木質化学	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00～	特記事項なし	

＜生物資源科学コース＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目	9:00～11:00	下記の志願する教育研究分野の科目の中から、あらかじめ届け出た2科目を解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00～	特記事項なし	

教育研究分野	科目
食料・資源管理学	農業経済学, 農産物流通論, 農業生産管理学, 食品産業論
資源植物生産学	作物学, 園芸学, 植物病理学, 植物育種学, 農業生産環境学
資源動物科学	動物遺伝学, 草地利用学, 動物生産生理学, 動物生体機構学, 動物生殖学, 乳牛生産管理学

【第1次募集】 筆記試験及び面接の実施日 平成29年8月18日（金）

環境科学専攻

＜自然システム科学コース＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [基礎自然科学]	9:00～11:00	物理学, 化学, 生物学, 地学の8問から3問を選択し, 解答します。 電卓持ち込み可。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00～	特記事項なし	

＜流域環境学コース＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [流域環境学]	9:00～11:00	次の専門科目から, あらかじめ届け出た2科目を解答します。 造林学, 生態学, 砂防工学, 森林計画学 (測樹学を含む), 生態計測学 (GIS, リモートセンシング), 流域水文学, 灌漑排水工学, 農村計画学, 構造力学, 土質力学, 農業機械学, 農産機械学, 農業情報工学	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00～	特記事項なし	

※注 「5選抜方法」(1)の口述試験では,「卒業論文の内容または進捗状況」,「大学院での研究計画」,および「それらに関連した専門的な事項」について口頭試問を行います。

＜社会基盤・建築学コース (社会基盤系)＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [社会基盤工学]	9:00～11:00	応用力学, 水理学, 地盤工学, コンクリート工学から4問出題し, 全問解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00～	特記事項なし	

【第1次募集】 筆記試験及び面接の実施日 平成29年8月18日（金）

<社会基盤・建築学コース（建築系）>

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [建築学]	9:00～11:00	建築材料・構造, 環境工学, 建築計画, 都市計画から各1問の計4問出題し, 1問選択し解答します。三角定規及び三角スケールの持ち込み可。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP)のスコアに基づいて評価します。	9ページの 出願書類を 参照してく ださい。
面接	13:00～	特記事項なし	

<地球科学コース>

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [地球科学]	9:00～11:00	地球科学に関する内容で, 2問出題し, 全問解答します。 英和辞書持ち込み可（電子辞書を除く）。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP)のスコアに基づいて評価します。	9ページの 出願書類を 参照してく ださい。
面接	13:00～	卒業研究等の学術的背景, 目的と意義, 計画, 成果の見込みおよび博士前期（修士）課程での研究計画について口述し, 質疑に応答します。	

<災害環境科学コース>

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目	9:00～11:00	地質学, 応用地質学, 雪氷学, 気象学, 水工学, 砂防学, 自然災害科学に関連する出題の中から2問選択し, 解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP)のスコアに基づいて評価します。	9ページの 出願書類を 参照してく ださい。
面接	13:00～	卒業研究等の学術的背景, 目的と意義, 計画, 成果の見込みおよび博士前期（修士）課程での研究計画について口述し, 質疑に応答します。	

【第2次募集】 筆記試験及び面接の実施日 平成30年2月20日(火)

数理物質科学専攻

＜物理学コース＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出願 書類を参照して ください。
口頭試問	9:00～	物理学一般, 卒業研究及び希望する指導(予定) 教員の研究に関する基礎事項などについて質問 します。	

※注 口頭試問の詳細については, 志望するコースの担当教員又は連絡先教員(51 ページ参照)に照会して
ください。

＜化学コース＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [化学]	9:00～11:00	無機・分析化学, 有機・生化学, 物理化学の 3問を解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出願 書類を参照して ください。
面接	13:00～	特記事項なし	

＜数理科学コース＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [数学]	9:00～11:00	線形代数, 微積分, 解析, 代数, 幾何, 情報科 学から出題します。3問を選択し, 解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出願 書類を参照して ください。
面接	13:00～	特記事項なし	

【第2次募集】 筆記試験及び面接の実施日 平成30年2月20日(火)

材料生産システム専攻

＜機能材料科学コース（物性系）＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [材料科学 (物性系)]	9:00～12:00	量子物理学, 熱・統計物理学, 半導体工学, 固体物性の4問から3問を選択し, 解答しま す。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出願 書類を参照して ください。
面接	13:00～	特記事項なし	

＜機能材料科学コース（開発系）＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [材料科学 (開発系)]	9:00～11:00	次の8科目の中から, あらかじめ届け出た1 組となっている2科目を解答します。 なお, 届け出る科目名は, 入学願書の「受験 する専門科目」欄に専門科目名とともに記載し てください。 [電気化学・物理化学], [高分子化学・高分子 材料工学], [生物化学工学・生物材料工学], [材 料評価学・機能材料力学/組織学]	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出願 書類を参照して ください。
面接	13:00～	特記事項なし	

＜素材生産科学コース（応用化学系）＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [応用化学]	9:00～11:00	次の5科目の中から, あらかじめ届け出た3 科目を解答します。 なお, 届け出る科目名は, 入学願書の「受験 する専門科目」欄に記載してください。 [無機化学], [分析化学], [物理化学], [有機化 学], [高分子化学]	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出願 書類を参照して ください。
面接	13:00～	特記事項なし	

[第2次募集] 筆記試験及び面接の実施日 平成30年2月20日(火)

<素材生産科学コース(化学工学系)>

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [化学工学]	9:00~11:00	化学工学基礎, 反応工学, 単位操作, 移動現象の4問全てを解答。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL(TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00~	口頭で化学工学の知識, あるいは化学工学に関連する分野の英語の知識を問うことがあります。	

<機械科学コース>

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [機械科学]	9:00~11:00	材料力学, 流体工学, 熱力学, 機械力学の各分野から1問出題し, 全問解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL(TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00~	特記事項なし	

【第2次募集】 筆記試験及び面接の実施日 平成30年2月20日(火)

電気情報工学専攻

＜情報工学コース＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [情報工学]	9:00～11:00	形式言語とオートマトン, デジタル回路, プログラミング, コンピュータネットワーク, 線形代数, 電磁気学の6問出題, 3問を選択し, 解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの 出願書類を 参照してく ださい。
面接	13:00～	特記事項なし	

＜電気電子工学コース＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [電気電子工学]	9:00～11:00	電磁気, 電気回路の2問を解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの 出願書類を 参照してく ださい。
面接	13:00～	特記事項なし	

＜人間支援科学コース＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目	9:00～11:00	微分積分・線形代数, 電気回路, プログラミング, 人間工学の4問を出題し, 全て解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの 出願書類を 参照してく ださい。
面接	13:00～	特記事項なし	

【第2次募集】 筆記試験及び面接の実施日 平成30年2月20日(火)

生命・食料科学専攻

＜基礎生命科学コース＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL(TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの出 願書類を参照 してください。
口頭試問	13:00～	卒業論文の概要と前期課程での研究計画を中心に口頭発表を行います。生物学の基礎的内容に関する質問をすることがあります。	

＜応用生命・食品科学コース＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目	9:00～11:00	次の10科目の中から、あらかじめ届け出た1科目を解答します。 生物化学, 微生物学, 生物有機化学, 畜産物利用学, 食品化学, 栄養制御学, 食品製造学, 植物栄養学, 土壌学, 木質化学	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL(TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの出 願書類を参照 してください。
面接	13:00～	特記事項なし	

＜生物資源科学コース＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目	9:00～11:00	下記の志願する教育研究分野の科目の中から、あらかじめ届け出た2科目を解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEICまたは TOEFL(TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9ページの出 願書類を参照 してください。
面接	13:00～	特記事項なし	

教育研究分野	科 目
食料・資源管理学	農業経済学, 農産物流通論, 農業生産管理学, 食品産業論
資源植物生産学	作物学, 園芸学, 植物病理学, 植物育種学, 農業生産環境学
資源動物科学	動物遺伝学, 草地利用学, 動物生産生理学, 動物生体機構学, 動物生殖学, 乳牛生産管理学

[第2次募集] 筆記試験及び面接の実施日 平成30年2月20日(火)

環境科学専攻

＜自然システム科学コース＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [基礎自然科学]	9:00～11:00	物理学, 化学, 生物学, 地学の4問から2問を選択し, 解答します。 電卓持ち込み可。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00～	これまでの研究成果などの概要と博士前期(修士)課程での研究計画について, 10分程度の口頭発表を行う。	

＜流域環境学コース＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [流域環境学]	9:00～11:00	次の専門科目から, あらかじめ届け出た2科目を解答します。 造林学, 生態学, 砂防工学, 森林計画学(測樹学を含む), 生態計測学(GIS, リモートセンシング), 流域水文学, 灌漑排水工学, 農村計画学, 構造力学, 土質力学, 農業機械学, 農産機械学, 農業情報工学	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00～	特記事項なし	

＜社会基盤・建築学コース(社会基盤系)＞

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目 [社会基盤工学]	9:00～11:00	応用力学, 水理学, 地盤工学, コンクリート工学から4問出題し, 全問解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出願書類を参照してください。
面接	13:00～	特記事項なし	

[第2次募集] 筆記試験及び面接の実施日 平成30年2月20日(火)

<社会基盤・建築学コース(建築系)>

科目	試験時間	試験内容等	備考
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出 願書類を参照 してください。
口頭試問	13:00～	卒業論文等の概要と前期課程での研究計画を説明 してもらいます。	

<地球科学コース>

科目	試験時間	試験内容等	備考
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出 願書類を参照 してください。
口頭試問	13:00～	卒業研究等の学術的背景, 目的と意義, 計画, 成 果および博士前期(修士)課程での研究計画につい て口述し, 質疑に応答します。	

<災害環境科学コース>

科目	試験時間	試験内容等	備考
専門科目	9:00～11:00	地質学, 応用地質学, 雪氷学, 気象学, 水工学, 砂防学, 自然災害科学に関連する出題の中から2問 選択し, 解答します。	
外国語 [英語]	実施しません	TOEIC または TOEFL (TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP) のスコアに基づいて評価します。	9 ページの出 願書類を参照 してください。
面接	13:00～	卒業研究等の学術的背景, 目的と意義, 計画, 成 果および博士前期(修士)課程での研究計画につい て口述し, 質疑に応答します。	

7 試験場

新潟大学五十嵐キャンパス（新潟市西区五十嵐2の町8050番地）

なお、試験場（試験室）の詳細については、受験票送付の際に指示します。

受験票の送付予定日は、次のとおりです。

【第1次募集】

① 口述試験受験者 平成29年7月4日（火）

② 筆記試験等受験者 平成29年7月28日（金）

【第2次募集】

平成30年1月30日（火）

8 合格発表

【第1次募集】 平成29年9月6日（水） 午前10時

【第2次募集】 平成30年3月7日（水） 午前10時

新潟大学大学院自然科学研究科正面玄関において、合格者の受験番号を掲示により発表するとともに、合格者には合格通知書を送付します。

なお、合格発表当日の12時頃に新潟大学大学院自然科学研究科ホームページ（<http://www.gs.niigata-u.ac.jp/>）にも合格者の受験番号を掲載します。

また、合否に関しての電話等による問い合わせには一切応じません。

9 入学手続

入学手続の概要は、次のとおりです。詳細については、合格者に別途通知します。

(1) 入学手続期間

平成30年3月26日（月）～3月27日（火）

(2) 入学に要する経費

① 入学金 282,000 円（予定額）

（注1） 入学金改定が行われた場合には、改定時から新入学金が適用されます。

（注2） 入学金免除等希望者は、入学手続時に入学金を納付しないでください。

（注3） 入学金を納付後、入学手続期間内に入学手続を完了しなかった（入学を辞退したものとして取り扱われる）場合は、当該入学金を返還します。返還の請求については、自然科学研究科学務係に照会してください。

10 授業料

年額 535,800 円（前期分 267,900円、後期分 267,900円）〔予定額〕

（注1） 授業料は、入学後、口座引き落としにより納付していただきます。

（注2） 授業料の納付方法の詳細については、合格者に別途通知します。

（注3） 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

11 入学金免除等について

下記のいずれかに該当する者のうち、入学手続期間内に所定の申請を行った者について、選考の上、入学金の全額又は半額を免除する制度があります。

なお、入学金徴収猶予（延納）の制度もあります。

(1) 経済的理由により入学金の納付が著しく困難であり、かつ、学業優秀と認められる者

(2) 入学前1年以内において、本学に入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は本学に入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、入学金の納付が著しく困難であると認められる者

(3) 上記に準ずる場合であって、相当の事由があると認められる者

12 授業料免除等について

下記のいずれかに該当する者のうち、入学後、所定の期間内に申請を行った者について、選考の上、各期（前期・後期）ごとに授業料の全額又は半額を免除する制度があります。

なお、授業料徴収猶予（延納又は月割分納）の制度もあります。

- (1) 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合
- (2) 授業料の当該期の納期前6ヶ月以内（新入学者に対する入学した日の属する期分の免除に係る場合は、入学前1年以内）又は納期中に、学資負担者が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付が著しく困難であると認められる場合
- (3) 上記に準ずる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合

13 奨学金について

日本学生支援機構には、学業・人物ともに優れた学生で経済的理由のため修学困難であると認められる者に対し、奨学金を貸与する制度があります。

この奨学金は、本人の申請に基づき、学業成績、研究能力及び家庭の経済的事情等を審査し、選考の上、日本学生支援機構に推薦し、決定されるものです。

14 長期履修学生制度

この制度は、社会人特別入試入学者等が職業を有しているため、通常の標準修業年限（2年）での修了が困難と予想される者のために標準修業年限（2年）を超えて履修し、修了することを可能にした制度です。

- (1) 対象者
職業を有する者（常勤に限る。）を対象とします。
- (2) 修業年限
長期履修学生の修業年限は、3年又は4年とします。
なお、入学後（在学中）に修業年限を変更することも可能ですが、その場合の適用は翌年度からとなりますので注意してください。
- (3) 申請方法
長期履修申請書及び勤務先所属長の承諾書を入学手続期間内に自然科学研究科学務係へ提出してください。
- (4) 結果通知
申請者に対し、入学手続後に長期履修の承認通知を行います。
- (5) 授業料
授業料の額は、「国立大学法人新潟大学授業料その他の費用に関する規程で定められた金額×標準修業年限（2年）÷長期履修学生の修業年限」で算出した金額（年額）となります。
なお、入学手続時には納付できません。
※ 算出例（平成29年度授業料年額を基に算出）
修業年限4年の長期履修学生の場合の授業料年額
 $535,800 \text{ 円} \times 2 \text{ 年} \div 4 \text{ 年} = 267,900 \text{ 円（年額）}$
（注）在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。
- (6) その他
不明な点については、自然科学研究科学務係へ問い合わせてください。

15 入学者選抜に用いた個人情報の取扱い

- (1) 出願に当たってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続、④入学者選抜方法等における調査・研究、分析及び⑤これらに付随する業務を行うために利用します。
- (2) 入学者選抜に用いた試験成績の個人情報は、入学者選抜方法等における調査・研究、分析を行うために利

用します。

- (3) 出願に当たってお知らせいただいた個人情報及び入試成績は、入学者のみ入学後の①教務関係（学籍，修学指導等），②学生支援関係（健康管理，奨学金申請等），③授業料等に関する業務を行うために利用します。

なお，個人情報のうち，合格者の氏名及び住所については，本学の同窓会及び後援会からの連絡を行うために利用する場合があります。

16 注意事項

- (1) 出願後は，出願書類等の記載事項の変更は認めません。

なお，既納の検定料及び出願書類等は，返還しません。

ただし，検定料振込み後，出願期間内に書類を提出しなかった場合は，当該検定料を返還しますので申し出てください。

- (2) その他出願に際して疑問又は不明の点があれば，次に問い合わせてください。

新潟大学自然科学研究科学務係 ☎(025)262-7387

Ⅲ 社会人特別入試

【 社 会 人 特 別 入 試 】

近年における自然科学の著しい進歩と社会情勢の変化に伴い、社会人のリフレッシュ教育・生涯教育に対する需要が地域社会・産業界から急速な高まりを見せています。このような要請に対応するため、各種研究機関、教育機関、企業等において活躍中の社会人の積極的な受入れを促進し、高度な学識の習得と研究能力の向上を図ることを目的として、一般の入学者選抜方法とは異なる社会人の特別入試を実施します。

この入試により入学した者に対しては、「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」による教育（33ページの「12」参照）を実施することとしています。

1 募集人員

専攻名	募集人員	専攻名	募集人員
数理物質科学専攻	若干人	生命・食料科学専攻	若干人
材料生産システム専攻	若干人	環境科学専攻	若干人
電気情報工学専攻	若干人		

(注1) 出願に際しては、必ず連絡先教員（51 ページ参照）又は志望するコースの担当教員（65 ページ参照）に教育研究内容等について問い合わせの上、出願してください。

(注2) 第2次募集については、各専攻とも、コースによって受入れできない場合があります。

2 出願資格

各種研究機関、教育機関又は企業等に平成30年4月1日現在で2年以上勤務経験を有する者で、入学後も引き続きその身分を有し、勤務成績が優秀であり、所属長の承諾を受けた者で、次のいずれかに該当する者とします。

- (1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学を卒業した者及び平成30年3月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成30年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者（【注1】参照）
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者（【注1】参照）
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び平成30年3月までに授与される見込みの者（【注1】参照）
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) 本研究科において、個別の入学者資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成30年3月31日までに22歳に達する者（【注2】参照）

【注1】 前記(3), (4)又は(6)の出願資格によって出願する者は, 新潟大学自然科学研究科学務係 (☎(025)262-7387) に問い合わせの上, 同係の指示する出願書類と共に, 返信用封筒(長形3号の封筒に郵便切手 372 円分を貼り, 志願者の住所, 氏名及び郵便番号を明記したもの)を提出し, 事前審査を受けてください。

書類等の提出期限及び事前審査の結果通知日は, 次のとおりです。

【第1次募集】 書類等は, **平成29年6月7日(水)まで**(必着)に提出してください。
事前審査の結果は, **平成29年6月14日付け**で本人あて通知します。

【第2次募集】 書類等は, **平成29年12月1日(金)まで**(必着)に提出してください。
事前審査の結果は, **平成29年12月19日付け**で本人あて通知します。

【注2】 前記(9)の出願資格によって出願する者は, 別紙2(50ページ)を参照してください。

3 出願期間

【第1次募集】 **平成29年6月15日(木)から平成29年6月21日(水)まで(期間内必着)**

【第2次募集】 **平成30年1月5日(金)から平成30年1月11日(木)まで(期間内必着)**

4 出願手続

(1) 出願方法

志願者は, 本要項に添付の封筒に次の書類等を入れ, 出願期間内に持参又は郵送してください。

(2) 出願書類等の提出先

〒 950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地

新潟大学自然科学研究科学務係 ☎ (025)262-7387

持参の場合: 受付時間は, 9時から17時までです。(土・日曜日は, 受付を行いません。)

郵送の場合: 必ず書留速達とし, 封筒の表に「社会人特別入試」と朱書してください。

(3) 出願書類等

〔志願者全員が提出するもの〕

書 類 等	摘 要
① 入 学 願 書 受 験 票 写 真 票 履 歴 書	<ul style="list-style-type: none"> 本要項に添付の所定用紙を使用してください。 なお, 「検定料納付証明書(新潟大学提出用)」を所定欄に確実に貼ってください。(※取扱金融機関の収納印が押印されていることを必ず確認してください。) 写真票の所定箇所に写真(縦4cm, 横3cmの上半身・無帽・正面向きで, 出願前3か月以内に撮影したもの)を貼ってください。 受験時に眼鏡を使用する者は, 眼鏡をかけて撮影してください。
② 卒業証明書又は 卒業見込証明書	<ul style="list-style-type: none"> 出身(在籍)大学長又は学部長が作成したものを提出してください。
③ 学業成績証明書	<ul style="list-style-type: none"> 出身(在籍)大学長又は学部長が作成し, 厳封したものを提出してください。 短期大学又は高等専門学校(専攻科)の修了者は, 短期大学又は高等専門学校の成績証明書と専攻科の成績証明書を提出してください。

④ 検定料納付証明書	<ul style="list-style-type: none"> 本要項に添付の「振込依頼書（新潟大学大学院自然科学研究科博士前期課程入学試験検定料）・振込金及び手数料領収書（志願者保存）・検定料納付証明書（新潟大学提出用）」に必要事項を記入し，以下の点に留意のうえ，最寄りの金融機関（ゆうちょ銀行及び郵便局を除く。）に持参し，窓口で検定料30,000円を振り込んでください。その後，入学願書の所定欄に検定料納付証明書（新潟大学提出用）を貼って提出してください。 なお，振込手数料は，志願者本人の負担となります。 ① 依頼人氏名欄は，必ず志願者本人の氏名を記入してください。 ② 検定料の振込みは，下記の期間内に必ず行ってください。 (※土・日曜日，祝日の振込みはできません。) 【第1次募集】平成29年6月8日（木）から6月21日（水）【15時】まで 【第2次募集】平成29年12月20日（水）から平成30年1月11日（木）【15時】まで ③ ATM（現金自動預払機）での振込みはできません。
⑤ 承諾書	<ul style="list-style-type: none"> 本要項に添付の所定用紙を使用し，勤務先の所属長が作成した承諾書を提出してください。
⑥ 在職期間等証明書	<ul style="list-style-type: none"> 在職期間及び職種について，勤務先の所属長が作成した証明書を提出してください。
⑦ 研究業績書	<ul style="list-style-type: none"> 本要項に添付の所定用紙を使用し，在職中の業績内容を記載したものを提出してください。 上記のほかに，研究論文，技術報告，特許・実用新案等がある場合，その業績を表す文書等の写しを提出してください。
⑧ 研究計画書	<ul style="list-style-type: none"> 上記のほかに，本要項に添付の所定用紙を使用し，入学後に研究を希望する課題又は分野等についてまとめたものを提出してください。
⑨ 返信用封筒 【第1次募集】 3枚作成 〔 受験票在中(長形3号) 合格通知書在中(長形3号) 入学手續書類在中(角形2号) 〕 【第2次募集】 2枚作成 〔 受験票在中(長形3号) 入学手續書類在中(角形2号) 〕	<ul style="list-style-type: none"> 本要項に添付の返信用封筒を使用してください。 封筒には，志願者の郵便番号，住所及び氏名を記入してください。 「受験票在中」（長形3号）には，郵便切手 372円分を貼ってください。 「合格通知書在中」（長形3号）及び「入学手續書類在中」（角形2号）には，郵便切手を貼る必要はありません。 ※ 転居等で受験票や合格通知書が未着となることがないように変更があった場合は，速やかに出願書類等提出先に申し出てください。

〔該当する志願者のみが提出するもの〕

書 類 等	摘 要
⑩ パスポートの写し又は 在留カードの写し	<ul style="list-style-type: none"> 外国籍を有する者は，パスポートの写し（顔写真ページおよび在留資格が記載されているページ）又は在留カードの写し（表裏両面）を提出してください。
⑪ 学位授与証明書	<ul style="list-style-type: none"> 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者で，それを出願資格とする場合のみ提出してください。
⑫ 短期大学又は高等専門学校 の専攻科の修了(見込み)証明書 及び学士の学位授与申請書 の受理証明書(又は学士の 学位授与を大学改革支援・学 位授与機構に申請予定である 旨の証明書)	<ul style="list-style-type: none"> 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与される見込みの者は，提出してください。（29ページの「2出願資格」の(2)後段該当者） 専攻科の修了（見込み）証明書及び学位授与申請予定の証明書は，出身（在籍）短期大学学長又は高等専門学校長が作成したものを提出してください。 学位授与申請書の受理証明書は，大学改革支援・学位授与機構が証明したものを提出してください。

〔注〕 (1) 出願書類等に不備がある場合には，受理しないことがあります。

- (2) 英語以外の外国語で作成された書類等には、日本語訳を必ず添付してください。
- (3) 健康診断書の提出を求めていますので、筆記試験及び口述試験の受験及び修学上の配慮を必要とする志願者は、出願前に申し出てください。
- (4) 出願書類等については、本研究科入学者選抜において必要なため提出いただくものであり、これによって得た情報を、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律第9条に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で使用又は第三者に提供することはありません。

5 選抜方法及び試験日程等

- ・ 入学者の選抜は、小論文、面接及び出願書類を総合して行います。
- ・ 試験日程及び時間割は、各専攻とも次のとおりです。

【第1次募集】 平成29年8月18日（金）

9：00 ～ 11：00	13：00 ～
小論文	面接

【第2次募集】 平成30年2月20日（火）

9：00 ～ 11：00	13：00 ～
小論文	面接

6 試験場

新潟大学五十嵐キャンパス（新潟市西区五十嵐2の町8050番地）

なお、試験場（試験室）の詳細については、受験票送付の際に指示します。

受験票の送付予定日は、次のとおりです。

【第1次募集】 平成29年7月28日（金）

【第2次募集】 平成30年1月30日（火）

7 合格発表

【第1次募集】 平成29年9月6日（水） 午前10時

【第2次募集】 平成30年3月7日（水） 午前10時

新潟大学大学院自然科学研究科正面玄関において、合格者の受験番号を掲示により発表するとともに、合格者には合格通知書を送付します。

なお、合格発表当日の12時頃に新潟大学大学院自然科学研究科ホームページ (<http://www.gs.niigata-u.ac.jp/>) にも合格者の受験番号を掲載します。

また、可否に関する電話等による問い合わせには一切応じません。

8 入学手続

入学手続の概要は、次のとおりです。詳細については、合格者に別途通知します。

(1) 入学手続期間

平成30年3月26日（月）～3月27日（火）

(2) 入学に要する経費

① 入学金 282,000 円（予定額）

（注1） 入学金改定が行われた場合には、改定時から新入学金が適用されます。

（注2） 入学金免除等希望者は、入学手続時に入学金を納付しないでください。

（注3） 入学金を納付後、入学手続期間内に入学手続を完了しなかった（入学を辞退したものと取り扱われる）場合は、当該入学金を返還します。返還の請求については、自然科学研究科学務係に照会してください。

9 授業料

年額 535,800 円（前期分 267,900円，後期分 267,900円）〔予定額〕

（注1） 授業料は、入学後、口座引き落としにより納付していただきます。

（注2） 授業料の納付方法の詳細については、合格者に別途通知します。

（注3） 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

10 入学料免除等について

下記のいずれかに該当する者のうち、入学手続期間内に所定の申請を行った者について、選考の上、入学料の全額又は半額を免除する制度があります。

なお、入学料徴収猶予（延納）の制度もあります。

- (1) 経済的理由により入学料の納付が著しく困難であり、かつ、学業優秀と認められる者
- (2) 入学前1年以内において、本学に入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は本学に入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、入学料の納付が著しく困難であると認められる者
- (3) 上記に準ずる場合であって、相当の事由があると認められる者

11 授業料免除等について

下記のいずれかに該当する者のうち、入学後、所定の期間内に申請を行った者について、選考の上、各期（前期・後期）ごとに授業料の全額又は半額を免除する制度があります。

なお、授業料徴収猶予（延納又は月割分納）の制度もあります。

- (1) 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合
- (2) 授業料の当該期の納期前6ヶ月以内（新入学者に対する入学した日の属する期分の免除に係る場合は、入学前1年以内）又は納期中に、学資負担者が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付が著しく困難であると認められる場合
- (3) 上記に準ずる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合

12 「教育方法の特例」（大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第14条に定める教育方法の特例）による教育について

官公庁、企業等において活躍中の社会人が博士前期課程で学ぶ場合、2年間完全に勤務を離れ学業に専念することになりますが、このような就学条件を満たすことは一般的に難しいことです。

そこで、このような社会人学生に対しては、大学院設置基準第14条の「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」の規定に基づき、教育方法の特例を実施します。

この特例により、学生は、それぞれの研究テーマに応じ、指導教員と協議の上、通常の授業形態のほか、集中講義や夜間講義等による単位修得の便宜を受けて研究を継続させ、修士論文を作成することができます。具体的には、入学後最初の半年間は、フルタイムとし、原則として通常の時間帯における履修を行い、残りの1.5年間は、パートタイムとし、それぞれの研究テーマに応じ、夜間の授業時間帯における履修を原則とします。

また、勤務の形態によっては、通常の時間帯でも受講でき、かつ、勤務地の関係で夜間講義の受講が困難な場合は、担当教員と協議の上、週末又は夏期等の休業期間に集中講義を受講することができます。

13 長期履修学生制度

この制度は、社会人特別入試入学者等が職業を有しているため、通常の標準修業年限（2年）での修了が困難と予想される者のために標準修業年限（2年）を超えて履修し、修了することを可能にした制度です。

- (1) 対象者
職業を有する者（常勤に限る。）を対象とします。
- (2) 修業年限
長期履修学生の修業年限は、3年又は4年とします。
なお、入学後（在学中）に修業年限を変更することも可能ですが、その場合の適用は翌年度からとなりますので注意してください。
- (3) 申請方法

長期履修申請書及び勤務先所属長の承諾書を入学手続期間内に自然科学研究科学務係へ提出してください。

(4) 結果通知

申請者に対し、入学手続後に長期履修の承認通知を行います。

(5) 授業料

授業料の額は、「国立大学法人新潟大学授業料その他の費用に関する規程で定められた金額×標準修業年限（2年）÷長期履修学生の修業年限」で算出した金額（年額）となります。

なお、入学手続時には納付できません。

※ 算出例（平成29年度授業料年額を基に算出）

修業年限4年の長期履修学生の場合の授業料年額

535,800 円×2年÷4年=267,900 円（年額）

（注） 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

(6) その他

不明な点については、自然科学研究科学務係へ問い合わせてください。

14 入学者選抜に用いた個人情報の取扱い

(1) 出願に当たってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続、④入学者選抜方法等における調査・研究、分析及び⑤これらに付随する業務を行うために利用します。

(2) 入学者選抜に用いた試験成績の個人情報は、入学者選抜方法等における調査・研究、分析を行うために利用します。

(3) 出願に当たってお知らせいただいた個人情報及び入試成績は、入学者のみ入学後の①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、奨学金申請等）、③授業料等に関する業務を行うために利用します。

なお、個人情報のうち、合格者の氏名及び住所については、本学の同窓会及び後援会からの連絡を行うために利用する場合があります。

15 注意事項

(1) 出願後は、出願書類等の記載事項の変更は認めません。また、既納の検定料及び出願書類等は、返還しません。

ただし、検定料振込み後、出願期間内に書類を提出しなかった場合は、当該検定料を返還しますので申し出てください。

(2) その他出願に際して疑問又は不明の点があれば、次に問い合わせてください。

新潟大学自然科学研究科学務係 ☎(025)262-7387

IV 外国人留学生特別入試

【外国人留学生特別入試】

1 募集人員

専攻名	募集人員	専攻名	募集人員
数理物質科学専攻	若干人	生命・食料科学専攻	若干人
材料生産システム専攻	若干人	環境科学専攻	若干人
電気情報工学専攻	若干人		

(注1) 出願に際しては、必ず連絡先教員(51 ページ参照)又は志望するコースの担当教員(65 ページ参照)に教育研究内容等について問い合わせの上、出願してください。

(注2) 第2次募集については、各専攻とも、コースによって受入れできない場合があります。

2 出願資格

外国人留学生として志願する者で、次のいずれかに該当する者としてします。

- (1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第83条に定める大学を卒業した者及び平成30年(2018年)3月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成30年(2018年)3月までに授与される見込みの者
- (3) 大学卒業までに16年を要しない国からの外国人留学生であって、次の二つの条件を満たし、かつ、本研究科が日本の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者(【注1】参照)
 - ① 大学教育終了後、日本国内又は外国の大学、大学共同利用機関等これに準ずる研究機関において、研究生、研究員等として1年以上研究に従事した者及び平成30年(2018年)3月までに1年以上研究に従事する見込みの者
 - ② 平成30年(2018年)3月31日までに22歳に達する者
- (4) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年(2018年)3月までに修了見込みの者
(【注1】参照)
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年(2018年)3月までに修了見込みの者(【注1】参照)
- (6) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成30年(2018年)3月までに修了見込みの者
- (7) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び平成30年(2018年)3月までに授与される見込みの者(【注1】参照)
- (8) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成30年(2018年)3月までに修了見込みの者
- (9) 文部科学大臣の指定した者
- (10) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、当該者をその後に本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者(【注1】参照)

- (11) 平成30年(2018年)3月31日までに学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学する予定の者で本研究科が定める単位を優秀な成績で修得する見込みがあると認めたもの及び外国の学校教育における15年の課程を修了した者【注2】参照)
- (12) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成30年(2018年)3月31日までに22歳に達する者【注3】参照)

【注1】 前記(3), (4), (5), (7)又は(10)の出願資格によって出願する者は、新潟大学自然科学研究科学務係(☎(025)262-7387)に問い合わせの上、同係の指示する出願書類と共に、返信用封筒(長形3号の封筒に郵便切手372円分を貼り、志願者の住所、氏名及び郵便番号を明記したもの)を提出し、事前審査を受けてください。

書類等の提出期限及び事前審査の結果通知日は、次のとおりです。

【第1次募集】書類等は、**平成29年(2017年)6月7日(水)まで(必着)**に提出してください。

事前審査の結果は、平成29年(2017年)6月14日付けで本人あて通知します。

【第2次募集】書類等は、**平成29年(2017年)12月1日(金)まで(必着)**に提出してください。

事前審査の結果は、平成29年(2017年)12月19日付けで本人あて通知します。

【注2】 前記(11)の出願資格によって出願する者は、別紙1(49ページ)を参照してください。

【注3】 前記(12)の出願資格によって出願する者は、別紙2(50ページ)を参照してください。

3 出願期間

【第1次募集】

平成29年(2017年)6月15日(木)から平成29年(2017年)6月21日(水)まで(期間内必着)

【第2次募集】

平成30年(2018年)1月5日(金)から平成30年(2018年)1月11日(木)まで(期間内必着)

4 出願手続

(1) 出願方法

志願者は、本要項に添付の封筒に次の書類等を入れ、出願期間内に持参又は郵送してください。

(2) 出願書類等の提出先

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地

新潟大学自然科学研究科学務係 ☎(025)262-7387

持参の場合：受付時間は、9時から17時までです。(土・日曜日は、受付を行いません。)

郵送の場合：必ず書留速達とし、封筒の表に「外国人留学生特別入試」と朱書してください。

(3) 出願書類等

〔志願者全員が提出するもの〕

書 類 等	摘 要
① 入学願書 受験票 写真票 履歴書	<ul style="list-style-type: none"> 本要項に添付の所定用紙を使用してください。 なお、「検定料納付証明書(新潟大学提出用)」を所定欄に確実に貼ってください。(※取扱金融機関の収納印が押印されていることを必ず確認してください。) 写真票の所定箇所に写真(縦4cm, 横3cmの上半身・無帽・正面向きで、出願前3か月以内に撮影したもの)を貼ってください。 受験時に眼鏡を使用する者は、眼鏡をかけて撮影してください。
② 卒業証明書又は 卒業見込証明書	<ul style="list-style-type: none"> 出身(在籍)大学長又は学部長が作成したものを提出してください。 36ページの「2出願資格」の(11)によって出願する者は、提出不要です。
③ 学業成績証明書	<ul style="list-style-type: none"> 出身(在籍)大学長又は学部長が作成し、厳封したものを提出してください。 短期大学又は高等専門学校の特攻科の修了者は、短期大学又は高等専門学校の成績証明書と専攻科の成績証明書を提出してください。

④ 検定料納付証明書	<ul style="list-style-type: none"> 本要項に添付の「振込依頼書（新潟大学大学院自然科学研究科博士前期課程入学試験検定料）・振込金及び手数料領収書（志願者保存）・検定料納付証明書（新潟大学提出用）」に必要事項を記入し、以下の点に留意のうえ、最寄りの金融機関（ゆうちょ銀行及び郵便局を除く。）に持参し、窓口で検定料30,000円を振り込んでください。その後、入学願書の所定欄に検定料納付証明書（新潟大学提出用）を貼って提出してください。 なお、振込手数料は、志願者本人の負担となります。 ① 依頼人氏名欄は、必ず志願者本人の氏名を記入してください。 ② 検定料の振込みは、下記の期間内に必ず行ってください。 (※土・日曜日、祝日の振込みはできません。) 【第1次募集】平成29年6月8日（木）から6月21日（水）【15時】まで 【第2次募集】平成29年12月20日（水）から平成30年1月11日（木）【15時】まで ③ ATM（現金自動預払機）での振込みはできません。
⑤ 返信用封筒 【第1次募集】 3枚作成 受験票在中(長形3号) 合格通知書在中(長形3号) 入学手續書類在中(角形2号) 【第2次募集】 2枚作成 受験票在中(長形3号) 入学手續書類在中(角形2号)	<ul style="list-style-type: none"> 本要項に添付の返信用封筒を使用してください。 封筒には、志願者の郵便番号、住所及び氏名を記入してください。 「受験票在中」（長形3号）には、郵便切手 372円分を貼ってください。 「合格通知書在中」（長形3号）及び「入学手續書類在中」（角形2号）には、郵便切手を貼る必要はありません。 ※ 転居等で受験票や合格通知書が未着となることがないように変更があった場合は、速やかに出願書類等提出先に申し出てください。
⑥ パスポートの写し 又は在留カードの写し	<ul style="list-style-type: none"> 外国籍を有する者は、パスポートの写し（顔写真ページおよび在留資格が記載されているページ）又は在留カードの写し（表裏両面）を提出してください。

〔該当する志願者のみが提出するもの〕

書 類 等	摘 要
⑦ 受験承諾書	<ul style="list-style-type: none"> 教育機関、研究機関や地方自治体、企業等に在職している者で在職のまま入学を予定している者（勤務地が外国の場合は、除きます。）は、勤務先所属長の作成した受験承諾書（本要項に添付の所定用紙）を提出してください。 なお、合格後退職して入学する予定の場合は、本人が退職する予定である旨を明記した文書をもって受験承諾書に代えます。その場合は、入学手續時に退職証明書（又は退職見込証明書）が必要です。
⑧ 学位授与証明書	<ul style="list-style-type: none"> 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者で、それを出願資格とする場合のみ提出してください。
⑨ 短期大学又は高等専門学校 の専攻科の修了(見込み)証明書及び学士の学位授与申請書の受理証明書(又は学士の学位授与を大学改革支援・学位授与機構に申請予定である旨の証明書)	<ul style="list-style-type: none"> 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与される見込みの者は、提出してください。(35 ページの「2 出願資格」の(2) 後段該当者) 専攻科の修了(見込み)証明書及び学位授与申請予定の証明書は、出身(在籍)短期大学長又は高等専門学校長が作成したものを提出してください。 学位授与申請書の受理証明書は、大学改革支援・学位授与機構が証明したものを提出してください。

- [注] (1) 出願書類等に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- (2) 英語以外の外国語で作成された書類等には、日本語訳を必ず添付してください。
- (3) 健康診断書の提出を求めていますので、筆記試験及び口述試験の受験及び修学上の配慮を必要とする志願者は、出願前に申し出てください。
- (4) 出願書類等については、本研究科入学選抜において必要なため提出いただくものであり、これによって得た情報を、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律第9条に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で使用又は第三者に提供することはありません。

5 選抜方法及び試験日程等

- ・ 入学者の選抜は、学力検査、面接及び出願書類を総合して行います。
- ・ 学力検査の実施科目（専門科目、日本語、英語等）、学力検査及び面接の実施時間等については、専攻（コース等）により異なりますので、51 ページに記載の志願するコースの連絡先教員に必ず問い合わせてください。
- ・ 次の試験日程は、外国人留学生特別入試の日程です。この日程に学力検査及び面接を行います。

【第1次募集】 平成29年（2017年）8月18日（金）

【第2次募集】 平成30年（2018年）2月20日（火）

6 試験場

新潟大学五十嵐キャンパス（新潟市西区五十嵐2の町8050番地）

なお、試験場（試験室）の詳細については、受験票送付の際に指示します。

受験票の送付予定日は、次のとおりです。

【第1次募集】 平成29年（2017年）7月28日（金）

【第2次募集】 平成30年（2018年）1月30日（火）

7 合格発表

【第1次募集】 平成29年（2017年）9月6日（水） 午前10時

【第2次募集】 平成30年（2018年）3月7日（水） 午前10時

新潟大学大学院自然科学研究科正面玄関において、合格者の受験番号を掲示により発表するとともに、合格者には合格通知書を送付します。

なお、合格発表当日の12時頃に新潟大学大学院自然科学研究科ホームページ (<http://www.gs.niigata-u.ac.jp/>) にも合格者の受験番号を掲載します。

また、合格に関しての電話等による問い合わせには一切応じません。

8 入学手続

入学手続の概要は、次のとおりです。詳細については、合格者に別途通知します。

(1) 入学手続期間

平成30年（2018年）3月26日（月）～3月27日（火）

(2) 入学に要する経費

入学金 282,000 円（予定額）

(注1) 入学金改定が行われた場合には、改定時から新入学金が適用されます。

(注2) 入学金免除等希望者は、入学手続時に入学金を納付しないでください。

(注3) 入学金を納付後、入学手続期間内に入学手続を完了しなかった（入学を辞退したものとして取り扱われる）場合は、当該入学金を返還します。返還の請求については、自然科学研究科学務係に照会してください。

9 授業料

年額 535,800 円（前期分 267,900円，後期分 267,900円）〔予定額〕

（注1） 授業料は，入学後，口座引き落としにより納付していただきます。

（注2） 授業料の納付方法の詳細については，合格者に別途通知します。

（注3） 在学中に授業料改定が行われた場合には，改定時から新授業料が適用されます。

10 入学料免除等について

下記のいずれかに該当する者のうち，入学手続期間内に所定の申請を行った者について，選考の上，入学料の全額又は半額を免除する制度があります。

また，入学料徴収猶予（延納）の制度もあります。

- (1) 経済的理由により入学料の納付が著しく困難であり，かつ，学業優秀と認められる者
- (2) 入学前1年以内において，本学に入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し，又は本学に入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより，入学料の納付が著しく困難であると認められる者
- (3) 上記に準ずる場合であって，相当の事由があると認められる者

11 授業料免除等について

下記のいずれかに該当する者のうち，入学後，所定の期間内に申請を行った者について，選考の上，各期（前期・後期）ごとに授業料の全額又は半額を免除する制度があります。

また，授業料徴収猶予（延納又は月割分納）の制度もあります。

- (1) 経済的理由により授業料の納付が困難であり，かつ，学業優秀と認められる場合
- (2) 授業料の当該期の納期前6ヶ月以内（新入学者に対する入学した日の属する期分の免除に係る場合は，入学前1年以内）又は納期中に，学資負担者が死亡し，又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け，納付が著しく困難であると認められる場合
- (3) 上記に準ずる場合であって，学長が相当と認める事由がある場合

12 入学者選抜に用いた個人情報の取扱い

- (1) 出願に当たってお知らせいただいた氏名，住所その他の個人情報については，①入学者選抜（出願処理，選抜実施），②合格発表，③入学手続，④入学者選抜方法等における調査・研究，分析及び⑤これらに付随する業務を行うために利用します。
- (2) 入学者選抜に用いた試験成績の個人情報は，入学者選抜方法等における調査・研究，分析を行うために利用します。
- (3) 出願に当たってお知らせいただいた個人情報及び入試成績は，入学者のみ入学後の①教務関係（学籍，修学指導等），②学生支援関係（健康管理，奨学金申請等），③授業料等に関する業務を行うために利用します。
なお，個人情報のうち，合格者の氏名及び住所については，本学の同窓会及び後援会からの連絡を行うために利用する場合があります。

13 注意事項

- (1) 出願後は，出願書類等の記載事項の変更は認めません。また，既納の検定料及び出願書類等は，返還しません。
ただし，検定料振込み後，出願期間内に書類を提出しなかった場合は，当該検定料を返還しますので申し出てください。
- (2) その他出願に際して疑問又は不明の点があれば，次に問い合わせてください。

新潟大学自然科学研究科学務係 ☎(025)262-7387

This is the English translation of the Japanese Application Guide.
The official version is the Japanese Application Guide.

【Entrance Examination for International Students】

1. Number of Students to be Admitted

Major	Number of Students	Major	Number of Students
Fundamental Sciences	Several	Life and Food Sciences	Several
Advanced Materials Science and Technology	Several	Environmental Science and Technology	Several
Electrical and Information Engineering	Several		

(Note 1) **Before applying, applicants are required to contact a chair of the course to which they aim to be admitted (see page 57) or alternatively contact a member of the teaching staff (see page 65) to inquire about the contents of the education and research curriculum.**

(Note 2) Regarding secondary admission, for all majors, please note that there are instances where entrance examinations may not be held depending on the course.

2. Eligibility for Application

An eligible applicant is considered to be someone applying as an international student, conforming to any of the conditions listed below.

- (1) Those who have graduated, or who expect to graduate by March, 2018, from a university as defined in Article 83 of the School Education Act (Act No. 26 of 1947).
- (2) Those who have a Bachelor's degree or expect to obtain such a degree by March, 2018, as defined in the provisions of the School Education Act, Article 104 - 4.
- (3) Those who are international students from a country that does not require 16 years of education to graduate from a university, fulfill the following two conditions, and can be deemed to have academic ability equivalent to or greater than someone who has graduated from a Japanese university (Refer to [Note 1]).
 - ① Those who, subsequent to completion of university education, have been engaged in research for a minimum of one year at a university either in Japan or in a country other than Japan or at a suitable research institute such as an Inter-University Research Institute, or those who expect to have been engaged in research at such an institution for a minimum of one year by March, 2018.
 - ② Those who will be 22 years old by March 31, 2018
- (4) Those who have completed 16 years study of school education in a country other than Japan or those who expect to have done so by March, 2018 (Refer to [Note 1]).
- (5) Those who, while in Japan, have completed 16 years of educational curriculum of a country other than Japan by following a distance learning program provided by a school of that country, or those who expect to complete such a 16-year educational curriculum by March, 2018 (Refer to [Note 1]).
- (6) Those who have completed, in Japan, the curriculum of a university of a country other than Japan (restricted to those who have completed 16 years of curriculum in the educational system of such a country) which is established under that country's educational system and individually recognized by the Minister of Education, Sports, Science and Technology, or alternatively those who expect to have been completed the curriculum of such a university by March, 2018.
- (7) Those who have a degree equivalent to a Bachelor's degree or expect to obtain such a degree by March, 2018, from a university or school of a country other than Japan by completing a course of study that is for at least 3 years (including a

distance learning program, provided by a school of that country, in Japan, or by an educational institution recognized as being part of the educational system of the country and specifically designated by the Minister of Education, Sports, Science and Technology. The university or school must be evaluated on the comprehensive quality of the education and research activities by the authorized persons of the government or relevant institution of the country or must be restricted to an institution specifically designated by the Minister of Education, Sports, Science and Technology (Refer to [Note 1]).

- (8) Those who have completed a postsecondary course of a specialized training college (course length must be at least 4 years, and conditions stipulated by the Minister of Education, Sports, Science and Technology must be fulfilled) that is individually recognized by the Minister of Education, Sports, Science and Technology on or later than the date specified by the Minister of Education, Sports, Science and Technology or alternatively those who are likely to have completed such a curriculum by March, 2018.
- (9) Those individually approved by the Minister of Education, Sports, Science and Technology.
- (10) Those who are enrolled in the graduate program of a university conforming to the School Education Act Article 102 - 2, and are later considered by the Graduate School of Science and Technology to have academic ability required for graduate education (Refer to [Note 1]).
- (11) Those who will have been enrolled in a university (in accordance with Article 83 of the School Education Act) for at least 3 years by March 31, 2018, and are considered to be on course to acquire good results for credits as defined by the Graduate School or those who have had studied under the educational curriculum in a country other than Japan for 15 years (Refer to [Note 2]).
- (12) Those who, following the individual screening of their eligibility for application, are approved as having academic ability equivalent to or greater than those with a Bachelor's degree and will be 22 years old by March 31, 2018 (Refer to [Note 3]).

[Note 1] Those eligible to apply on the basis of (3), (4), (5), (7) or (10) as outlined above should make inquiries to the Academic Affairs Division, Graduate School of Science and Technology, Niigata University, (Tel. +81-25-262-7387) for further instructions. Submit the application documents as instructed by the Academic Affairs Division together with a return envelope (affix stamps to the value of 372 yen to a long self-addressed envelope including name and postal code) for the initial screening for eligibility of application.

Submission deadlines of documents and the disclosing dates for the initial screening results are listed below.

- 【Primary Application】** Documents must arrive by **Wednesday, June 7, 2017**
Initial screening results will be disclosed to applicants on June 14, 2017
- 【Secondary Application】** Documents must arrive by **Friday, December 1, 2017**
Initial screening results will be disclosed to applicants on December 19, 2017

[Note 2] Those eligible to apply based on (11) above should refer to Appendix 1 (page 53)

[Note 3] Those eligible to apply based on (12) above should refer to Appendix 2 (page 55)

3. Application Period

【Primary Application】

Thursday, June 15, 2017 – Wednesday, June 21, 2017 (applications must arrive within this period)

【Secondary Application】

Friday, January 5, 2018 – Thursday, January 11, 2018 (applications must arrive within this period)

4. Application Procedure

(1) Method of Application

Applicants should enclose the following documents in the envelope provided with this application guidebook and either mail or alternatively bring it in person to the following address. This must be done within the application period.

(2) Submission of Application Documents:

Academic Affairs Division, Graduate School of Science and Technology, Niigata University
8050 Ikarashi 2-no-cho, Nishi-Ku, Niigata City, Niigata 950-2181 Japan Tel. +81-25-262-7387

- Submission in person: Application documents will be accepted from 9:00 to 17:00 (The office is closed on weekends and holidays).
- Submission by mail: Registered express mail must be used, and please mark “Entrance Examination for International Students” in red on front side of the envelope.

(3) Application Documents Required to be Submitted by All Applicants

Type of Document	Instructions
<p>① Application Form (「平成30年度新潟大学大学院自然科学研究科博士前期課程入学願書」)</p> <p>Examination Card (「受験票」)</p> <p>Photograph Card (「写真票」)</p> <p>Curriculum Vitae (「履歷書」)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Use the designated form attached with this application guidebook. Be sure to affix the “Examination Fee Payment Certificate (for submission to Niigata University) (「検定料納付証明書(新潟大学提出用)」)” in the space provided on the application form. (Check that the Payment Certificate has an official stamp of the financial institution handling the payment.) • Affix the photograph in the space provided on the photograph card. (This photograph should have been taken within three months prior to application and should be 4cm long by 3cm wide, clearly displaying a frontal, hatless view of the applicant’s upper body.) • If the applicant intends to wear glasses when taking the examination, he or she should also wear glasses when having the photograph taken.
<p>② Certificate of (Expected) Graduation</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Submit a certificate issued by the President of the university or the Dean of the Faculty where the applicant attended or is currently enrolled in. • This requirement does not extend to those applying according to (11) of “2. Eligibility for Application” on page 42.
<p>③ Academic Transcript(s)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Submit an official academic transcript issued by the President of the university or the Dean of the Faculty where the applicant attended, or is currently enrolled in, in a sealed envelope. • Applicants who have completed an advanced course at a junior college or KOSEN college of technology must submit academic transcripts from both their junior college or KOSEN college of technology and their advanced program of junior college or KOSEN college of technology.

<p>④ Examination Fee Payment Certificate (「検定料納付証明書(新潟大学提出用)」)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Complete the required sections in the attached “Request for Payment by Bank Deposit Transfer (Entrance Examination Fee for Master’s Program at the Graduate School of Science and Technology, Niigata University) (「振込依頼書(新潟大学大学院自然科学研究科博士前期課程入学試験検定料)」), the Transfer Payment and Transfer Fee Receipt (retained by the applicant) (「振込金及び手数料領収書(志願者保存)」), and the Examination Fee Payment Certificate (for submission to Niigata University) (「検定料納付証明書(新潟大学提出用)」).” Once they are completed, after verifying the following points, take them without detaching to a financial institution (excluding Yuucho Bank and Post Offices) and pay the examination fee of 30,000 Japanese yen at the counter. Finally, affix the Examination Fee Payment Certificate (for submission to Niigata University) in the space provided on the application form for submission. <p>Applicants are required to bear the cost of the transfer fee.</p> <p>① Please write the applicant’s name in the space for providing the name of the person requesting the transfer.</p> <p>② The examination fee must be paid within the period outlined below. (* A payment cannot be made on Saturdays, Sundays, and Japanese national holidays.)</p> <p>【Primary Admission】 From Thursday, June 8, 2017, to 15:00 on Wednesday, June 21, 2017</p> <p>【Secondary Admission】 From Wednesday, December 20, 2017, to 15:00 on Thursday, January 11, 2018</p> <p>③ An ATM (Automated Teller Machine) cannot be used to transfer payment.</p>
<p>⑤ Return Envelopes 【Primary Application】 3 Envelopes • 1 <i>envelope for examination card</i> (「受験票在中」)(long envelope) • 1 <i>envelope for admission letter</i> (「入学通知書類在中」)(long envelope) • 1 <i>envelope for admission procedure documents</i> (「入学手続書類在中」)(square envelope)</p> <p>【Secondary Application】 2 Envelopes • 1 <i>envelope for examination card</i> (「受験票在中」)(long envelope) • 1 <i>envelope for admission procedure documents</i> (「入学通知書類在中」)(square envelope)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Use the return envelopes attached with this application guidebook. • Fill out the envelopes with the applicant’s name, address and postal code. • Affix stamps to the value of 372 yen onto the <i>envelope containing examination card</i> (「受験票在中」)(long envelope). • It is not necessary to affix stamps onto the <i>envelope containing admission letter</i> (「入学通知書類在中」)(long envelope) nor the <i>envelope containing admission procedure documents</i> (「入学手続書類在中」)(square envelope). <p>* Applicants should notify the Graduate School immediately in the event of changing their addresses, as otherwise the examination cards or the admission letters may not be delivered properly.</p>
<p>⑥ Copies of Passport or Residence Card</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Non-Japanese applicants should submit copies of their passport (showing photograph and residential status) or both sides of their Residence Card.

[The following items are only to be submitted by applicants to whom they are relevant]

Type of Document	Instructions
<p>⑦ Letter of Consent for Taking Examination</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Those who are currently employed in an educational institution, a research institution, a local government body, or a corporation and wish to apply for admission while remaining in employment (excluding those who are employed outside Japan) should submit a Letter of Consent for Taking Examination (Use the attached form) issued by the head or representative of

	<p>their employing organization.</p> <ul style="list-style-type: none"> Applicants who intend to resign from their post of employment after passing the examination are required to provide a letter explaining their intention to resign from their post instead of a Letter of Consent for Taking the Examination. In this case, the applicants are required to provide a certificate of resignation (or certificate of intention to resign) during the admission procedure.
⑧ Certificate of Bachelor's Degree	<ul style="list-style-type: none"> Submit this only in cases where the applicant possesses a Bachelor's degree from National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education, and when this is used to prove their application eligibility.
⑨ Certificate of (expected) completion of an advanced course of a junior college / technical college, and a certificate of receipt of an application form for award of a Bachelor's degree (or a certificate showing intent to apply National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education for the award of a Bachelor's degree)	<ul style="list-style-type: none"> These certificates must be submitted by applicants who are on course to be awarded a Bachelor's degree from National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education (latter party of (2) in "2. Eligibility for Application" on page 41). Submit the (expected) completion certificate of an advanced course of the junior college or KOSEN college of technology and the certificate showing intent to apply for award of a Bachelor's degree issued by the Dean of the junior college or KOSEN college of technology where the applicant attended or is currently enrolled in. Submit the certificate of receipt of an application form for the award of a Bachelor's degree validated by the National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education.

- [Notes]
- Inadequately completed application documents may not be accepted.
 - Please note that a Japanese translation must be appended to all documents that are made in a foreign language other than English.**
 - Although the submission of a health certificate is not mandatory, those who require special attention for the written and oral examinations and/or study should make their needs known before applying.**
 - Submitted application documents are used for the purposes of selecting students for the Graduate School. Therefore, the information obtained will not be used for any other purposes or provided to any third parties without the prior consent of the applicant, except in cases prescribed by Article 9 of the Law relating to the protection of personal information retained by independent administrative institutions.

5. Method of Selection and Examination Schedule

- Academic examinations (written and oral) and application documents are all taken into consideration when selecting students.
 - Since subjects for the written examinations (specialized subjects, Japanese, English, etc.) differ according to each course, the applicant should refer to the contact member of teaching staff of the course to which he or she is applying for details.**
- A list of contact members can be found on page 57.**
- The following are the dates for general entrance examinations. Both oral and written examinations are implemented on these dates.

【Primary Application】 Friday, August 18, 2017

【Secondary Application】 Tuesday, February 20, 2018

6. Examination Venue

Niigata University Ikarashi Campus (8050 Ikarashi 2-no-cho, Nishi-ku, Niigata City)

Detailed information on the examination venue (examination room) will be notified to the applicants together with the examination card by mail.

Examination cards are scheduled to be mailed out to the applicants on the following dates:

【Primary Application】 Friday, July 28, 2017

【Secondary Application】 Tuesday, January 30, 2018

7. Announcement of Admission Decision

【Primary Application】 10:00 on Wednesday, September 6, 2017

【Secondary Application】 10:00 on Wednesday, March 7, 2018

- The examinee numbers of successful applicants will be posted on the bulletin board in the front hall of the Graduate School of Science and Technology, Niigata University, and admission letters will also be issued to successful applicants by mail.
- The examinee numbers of successful applicants will also be made available online (<http://www.gs.niigata-u.ac.jp/>) around 12:00 of the day of the announcement.
- No telephone inquiries about the test results will be answered.

8. Admission Procedure

The following is the general information about the university admission procedure.

Detailed information will be notified to successful applicants.

(1) Admission Procedure Period

From Monday, March 26, 2018, to Tuesday, March 27, 2018

(2) Entrance Fee

Entrance Fee 282,000 Japanese yen (provisional)

[Note 1] If the entrance fee is revised, the new revised entrance fee will apply from the date of revision.

[Note 2] Those who wish to be exempted from paying the entrance fee should not pay it during the admission procedure.

[Note 3] Those who have not completed the admission procedure within the specified period after paying the entrance fee (considered as admission refusal) will have the entrance fee fully reimbursed. Enquiries about reimbursement of entrance fee should be addressed to the Academic Affairs Division, Graduate School of Science and Technology, Niigata University.

9. Tuition

Tuition is 535,800 Japanese yen per annum (first semester 267,900 yen, second semester 267,900 yen) (provisional)

[Note 1] Tuition should be paid by direct debit subsequent to admission.

[Note 2] Detailed information about payment method for tuition will be issued separately to successful applicants.

[Note 3] If tuition is revised while students are enrolled, the new amount will apply from the date of revision.

10. Entrance Fee Exemption

There is a program under which consideration can be given to exempt all or half of the entrance fee for applicants who apply for this exemption program within the prescribed period after admission and meet any of the criteria listed below.

There is also a program where payment of the entrance fee may be postponed (deferred payment).

(1) Outstanding students who, for economic reasons, have difficulty in paying the entrance fee.

(2) Students who have great difficulty in paying the entrance fee in the event that during the year preceding their admission either the person mainly responsible for paying the tuition (hereinafter “tuition fee payer”) died, or because of other mitigating circumstances such as either the student or the tuition fee payer being a victim of storm or flood damage.

(3) Applicants deemed by the university as having circumstances or reasons comparable to those mentioned above.

11. Tuition Exemption

There is a program under which students may be exempt from paying all or half of the tuition (following consideration) if they apply for this exemption program within the prescribed period after admission and meet any of the criteria listed below.

There is also a program under which payment of tuition may be postponed (deferred payment or payment by installment).

(1) Outstanding students who, for economic reasons, have difficulty in paying their tuition.

(2) Students who have great difficulty in paying their tuition in the event that during the six months preceding their admission (or within one year prior to admission if only applying for the tuition exemption for the semester that the newly admitted students entered the university) or during the payment period, tuition fee payer died or because of other mitigating circumstances such as either the student or the tuition payer being a victim of storm or flood damage.

(3) Applicants deemed by the university as having circumstances or reasons comparable to those mentioned above.

12. Handling of Personal Information used in Selection of Students for Admission

- (1) Names, addresses and other personal information communicated at the time of application are used for the following purposes: ①selection of students for admission (application process, selection), ②admission announcements, ③ admission procedure, ④surveys, studies and analyses relating to the method of selecting students for admission and ⑤ carrying out any other work associated with these.
- (2) Personal information about examination results used in selecting students for admission is used for surveys, studies and analysis relating to the method of selecting students for admission.
- (3) Personal information provided at the time of application and entrance examination results are used, in connection with successful candidates after admission only, for the followings: ①academic affairs matters (university register, study guidance, etc.), ②student support matters (health care, scholarship applications, etc.) ③matters related to tuition fees, etc.

Personal information, such as names and addresses of successful applicants, may be used to enable class reunions and support groups at this university to contact them.

13. Important Points

- (1) After submission, no alterations may be made to information contained in application documents. Furthermore, examination fee and application documents cannot be returned once they have been submitted. However, in the event that the applicant does not submit the application documents within the application period subsequent to having paid the examination fee by bank transfer, he or she should apply to have the examination fee reimbursed.
- (2) For any additional questions or queries about application, please do not hesitate to contact the Academic Affairs Division, Graduate School of Science and Technology, Niigata University Tel. +81-25- 262-7387

V 各入試共通事項

別紙1

平成30年(2018年)3月31日までに「学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学する予定の者で本研究科が定める単位を優秀な成績で修得する見込みがあると認めたもの」及び「外国の学校教育における15年の課程を修了した者」の出願手続き等について

- 本研究科において、次の(1)~(3)の条件を満たす者について審査し、出願資格を認定します。ただし、学校教育法の規定に基づき、大学に「編入学」した者(短期大学や高等専門学校等を卒業した者などが対象)は、適用されません。

(1) 在学期間について

学校教育法第83条に定める大学の在学期間が平成30年3月末において3年以上に達すること、又は外国の学校教育における15年の課程を修了した者であること。

なお、休学した期間は、在学期間に含めないものとします。

(2) 修得単位について

- ・ 「学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学する予定の者」については、平成30年3月末において、100単位以上(第3年次までに修得する必要がある授業科目の単位を含む。)を修得見込みであること。
- ・ 「外国の学校教育における15年の課程を修了した者」については、制約はありません。

(3) 学業成績について

- ・ 「学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学する予定の者」については、平成30年3月末において、修得単位の4/5以上が最上位の評語又は80点以上を得る見込みであること。
- ・ 「外国の学校教育における15年の課程を修了した者」については、修得単位の4/5以上が最上位の評語又は80点以上であること。

(注) 「学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学する予定の者」で、入学試験で「合格」と判定された者が上記(1)、(2)及び(3)に定める所定の在学期間、単位及び成績を得られない場合は、入学を許可することはできません。

- 事前資格審査を行いますので、志願者は、次の書類等と「4 出願手続」の(3)に記載の「出願書類等〔④検定料納付証明書を除く。〕を一括して、第1次募集にあつては平成29年6月7日(水)までに、第2次募集にあつては平成29年12月1日(金)までに新潟大学自然科学研究科学務係に持参又は郵送(必着)してください。

(提出する証明書等の関係書類(英語以外の外国語)は、必ず日本語の訳文を添付してください。)

「学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学する予定の者」

- (1) 在学証明書
- (2) 返信用封筒(審査結果通知用。封筒(長形3号)に郵便切手372円分を貼り、志願者の住所、氏名及び郵便番号を明記したもの。)
- (3) 在籍大学の履修の手引き(授業内容一覧も含む。本学在学者は、提出不要。)及び履修計画書
- (4) 在籍大学の受験許可書(本学在学者は、提出不要。)

「外国の学校教育における15年の課程を修了した者」

返信用封筒(審査結果通知用。封筒(長形3号)に郵便切手372円分を貼り、志願者の住所、氏名及び郵便番号を明記したもの。)

この出願資格によって出願する者については、本研究科において事前資格審査を行いますので、これが終了するまでは、出願書類等の受理を保留します。

なお、事前資格審査の結果は、第1次募集にあつては平成29年6月14日付けで、第2次募集にあつては平成29年12月19日付けで本人あて通知します。出願資格の認定を受けた者は、所定の期間内に本要項に添付の「振込依頼書(新潟大学大学院自然科学研究科博士前期課程入学試験検定料)・振込金及び手数料領収書(志願者保存)・検定料納付証明書(新潟大学提出用)」に必要事項を記入し、最寄りの金融機関(ゆうちょ銀行及び郵便局を除く。)に持参し、窓口で所定の検定料を振り込んでください。その際、必ず取扱金融機関収納印欄に押印を受けてください。その後、出願期間内(必着)に「検定料納付証明書(新潟大学提出用)」を提出してください。

- 「学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学する予定の者」

- ・ 入学試験で「合格」と判定された者は、平成30年3月27日(火)までに在学大学(学部)長が発行する学業成績証明書(第3年次修了時までの成績が記載されたもの)を本学自然科学研究科学務係まで提出してください。
- ・ この出願資格により入学する者は、当該大学(学部)を退学することになります。したがって、種々国家試験等の受験資格で、大学(学部)を卒業していることを要件としているものについては、受験資格が得られないこととなりますので、承知しておいてください。

「本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成30年(2018年)3月31日までに22歳に達するもの」の出願資格等について

本研究科において、入学希望者個人の能力等の個別審査により出願資格を認定します。

1 出願資格審査対象者

個別の出願資格審査の対象となる者は、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の国内外の教育施設の修了者等で、平成30年3月31日までに22歳に達するものです。

2 出願資格審査方法等

出願資格審査では、上記学校等での学習内容、卒業(修了)後の教育機関、研究機関及び企業等においての実務・研究内容並びに著書、学術論文、学術講演、学術報告及び特許等を審査します。

出願資格審査で「大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者」に本研究科への出願資格を認め、出願書類を受理します。

3 出願資格審査結果通知

出願資格審査の結果は、第1次募集にあつては平成29年6月14日付けで、第2次募集にあつては平成29年12月19日付けで本人あて通知します。出願資格の認定を受けた者は、所定の期間内に本要項に添付の「振込依頼書(新潟大学大学院自然科学研究科博士前期課程入学試験検定料)・振込金及び手数料領収書(志願者保存)・検定料納付証明書(新潟大学提出用)」に必要事項を記入し、最寄りの金融機関(ゆうちょ銀行及び郵便局を除く。)に持参し、窓口で所定の検定料を振り込んでください。その際、必ず取扱金融機関収納印欄に押印を受けてください。その後、出願期間内(必着)に「検定料納付証明書(新潟大学提出用)」を提出してください。

4 出願資格審査手続等

出願資格審査を受けようとする者は、次表の「審査書類等」と「4 出願手続」の(3)に記載の「出願書類等〔④検定料納付証明書を除く。〕」を一括して、第1次募集にあつては平成29年6月7日(水)までに、第2次募集にあつては平成29年12月1日(金)までに新潟大学自然科学研究科学務係に持参又は郵送(必着)してください。(提出する証明書等の関係書類(英語以外の外国語)は、必ず日本語の訳文を添付してください。)

なお、審査書類等を提出する前に必ず志望するコースの担当教員又は連絡先教員の指示を受けてください。
〔審査に必要な書類等〕

審査書類等	摘 要
(1) 卒業(修了)証明書	<ul style="list-style-type: none"> 出身学校長が作成したものを提出してください。 短期大学又は高等専門学校の専攻科等の修了者は、短期大学又は高等専門学校の成績証明書と専攻科等の修了証明書を提出してください。
(2) 学業成績証明書	<ul style="list-style-type: none"> 出身学校長が作成したものを提出してください。 短期大学又は高等専門学校の専攻科等の修了者は、短期大学又は高等専門学校の卒業証明書と専攻科等の成績証明書を提出してください。
(3) 入学試験出願資格認定審査調書	<ul style="list-style-type: none"> 本要項に添付の所定用紙に記入してください。
(4) 研究業績書	<ul style="list-style-type: none"> 本要項に添付の所定用紙に、著書、学術論文、学術講演、学術報告及び特許等を記載し、その業績を表す文書等の写しを添付してください。
(5) 研究経過報告書	<ul style="list-style-type: none"> 本要項に添付の所定用紙に、学校等卒業(修了)後の教育機関、研究機関及び企業等における調査研究等(短期大学又は高等専門学校の専攻科等の修了者は、専攻科等における研究状況等を含む。)を詳細に記載してください。
(6) 返信用封筒 (審査結果通知用)	<ul style="list-style-type: none"> 封筒(長形3号)に志願者の住所、氏名及び郵便番号を明記し、郵便切手372円分を貼ったものを提出してください。

コースの連絡先教員一覧表 (博士前期課程)

専攻名	コース名	連絡先	連絡先電話番号
数理物質科学専攻	物理学	大坪 隆	(025)262-6269
	化学	田山 英治	(025)262-7741
	数理科科学	星 明考	(025)262-7481
材料生産システム専攻	機能材料科学	瀧本 哲也	(025)262-7744
	素材生産科学	木村 勇雄	(025)262-7194
	機械科学	安部 隆	(025)262-6795
電気情報工学専攻	情報工学	青戸 等人	(025)262-6753
	電気電子工学	佐々木 重信	(025)262-6737
	人間支援科学	林 豊彦	(025)262-7339
生命・食料科学専攻	基礎生命科学	岩崎 俊介	(025)262-7533
	応用生命・食品科学	西海 理之	(025)262-6663
	生物資源科学	韓 東生	(025)260-1320
環境科学専攻	自然システム科学	久保田 喜裕	(025)262-7534
	流域環境学	村上 拓彦	(025)262-6627
	社会基盤・建築学	西村 伸也	(025)262-7217
	地球科学	椎野 勇太	(025)262-6186
	災害環境科学	卜部 厚志	(025)262-7057

Appendix 1

Regarding application eligibility for “those who will have been enrolled in a university (in accordance with Article 83 of the School Education Act) for at least 3 years by March 31, 2018, and is considered to be on course to acquire good results for credits as defined by the Graduate School, or those who have had studied under the educational curriculum of a country other than Japan for 15 years”

○The Graduate School will confirm the eligibility for application by screening applicants who fulfill the following conditions in (1) - (3). However, in accordance with the School Education Act, these conditions do not apply to those who have entered the university as “transfer students (those who have graduated from junior college or KOSEN college of technology).”

(1) Period of Enrollment

Enrollment in a university, stipulated by Article 83 of the School Education Act, for more than 3 years by the end of March, 2018, or alternatively completion of 15 years of educational curriculum in a country other than Japan is required.

Periods of temporary absence from university will not be included in the period of enrollment.

(2) Credit Acquisition

- For “those who expect to be enrolled in a university stipulated by the School Education Act for more than 3 years,” 100 or more credits shall be expected to be acquired by the end of March, 2018, including course credits that are required to be acquired by the end of the 3rd year).
- There are no restrictions for “those who have completed 15 years of educational curriculum in a country other than Japan.”

(3) Scholastic Performance

- “Those who expect to be enrolled in a university stipulated by Article 83 the School Education Act for more than 3 years” are required to have the highest grades for at least 4/5 of acquired credits or are expected to score higher than 80 points, as of the end of March, 2018.
- “Those who have completed 15 years of educational curriculum in a country other than Japan” are required to have the highest grades for at least 4/5 of acquired credits or are expected to score higher than 80 points.

(Note) For “those who expect to be enrolled in a university stipulated by Article 83 of the School Education Act for more than three years” and who are judged to have “passed” the entrance examination but are unable to gain the specified period, credits, and grades as outlined in (1), (2), (3) above, the admission to the Graduate School cannot be granted.

○An **eligibility screening** will be conducted. Therefore, those wishing to apply should submit the following documents with the “Application Documents” (excluding the Examination Fee Payment Certificate in ④) detailed in (3) of “4 Application Procedure” by mail or in person to the Academic Affairs Division, Graduate School of Science and Technology, Niigata University.

The deadline for the primary application is **Wednesday, June 7, 2017**, and the deadline for the secondary application is **Friday, December 1, 2017**.

(A Japanese translation must be appended for any documents, including certificates, which are in a foreign language other than English).

“Those who expect to be enrolled in a university stipulated by Article 83 the School Education Act for more than 3 years”

- (1) Certificate of Student Status
- (2) A return envelope (for announcing result of the eligibility screening. Affix stamps to the value of 372 yen to a long envelope and clearly mark it with the name, address and postal code of the applicant)
- (3) Course outline of the university currently enrolled in (including a summary of class contents. Not required for current students of Niigata University) together with study plan.
- (4) Examination permit from the university currently enrolled in (Not required for current students of Niigata University)

“Those who have completed 15 years of educational curriculum in a country other than Japan”

A return envelope (for announcing result of the eligibility screening. Affix stamps to the value of 372 yen to a long envelope and clearly mark it with the name, address and postal code of the applicant)

For those applying with the above application eligibility, the Graduate School will defer accepting application documents until the eligibility screening process is completed.

Results of the eligibility screening will be sent to the applicants as follows: For the primary application, results will be sent

on **June 14, 2017**, and results for the secondary application will be sent on **December 19, 2017**.

Those who have received the confirmation of eligibility should, within the specified period, complete the required items in the attached “Request for Payment by Bank Deposit Transfer (Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Master’s Program Entrance Examination Fee) (「振込依頼書 (新潟大学大学院自然科学研究科博士前期課程入学試験検定料)」), the Transfer Payment and Transfer Fee Receipt (retained by the applicant) (「振込金及び手数料領収書 (志願者保存)」) and the Examination Fee Payment Certificate (for submission to Niigata University) (「検定料納付証明書 (新潟大学提出用)」), take them without detaching to a financial institution (excluding Yuucho Bank and Post Offices) and pay the examination fee at the counter. Make sure that the Payment Certificate has an official stamp of the financial institution handling the payment. After the payment, submit the Examination Fee Payment Certificate (for submission to Niigata University) within the application period.

○“**Those who expect to be enrolled in a university stipulated by Article 83 the School Education Act for more than 3 years**”

- Those who are judged to have “passed” the entrance examination, please submit the academic transcript issued by the President of the university (or the Dean of the Faculty) which they are currently enrolled in (including grades up to the end of the third year) to the Academic Affairs Division of the Graduate School of Science and Technology, Niigata University, by **Tuesday, March 27, 2018**.
- Those admitted through this eligibility are required to leave their current university (undergraduate). Accordingly, please be aware that it will not be possible to acquire examination qualifications for various national exams which require graduation from university (undergraduate) once the applicant leaves his or her current university.

Appendix 2

Regarding application eligibility for “Those who, following the individual screening of their eligibility for application, are approved as having the academic ability equivalent to or greater than those with a Bachelor’s degree and who will be 22 years old by March 31, 2018”

The Graduate School will confirm the eligibility for application through individual screening including the ability of each applicant.

1. Applicants Subject to Screening for Eligibility

Applicants subject to screening for eligibility are those who have completed education at junior colleges, KOSEN colleges of technology, specialized training colleges, and other kinds of schools, and those who have completed education at other educational institutions in Japan or a country other than Japan, and who will be 22 years old by March 31, 2018.

2. Screening Method for Eligibility

The eligibility screening will look into the followings: details of studies at above-mentioned schools, details of practical work experience and research details at educational institutions, research institutions or corporations following graduation, including publications, academic theses, academic papers, academic lectures, academic reports and patents, etc.

The eligibility screening will be conducted to confirm the eligibility to apply for the Graduate School as “those approved to have academic ability equivalent to or greater than that of someone holding a Bachelor’s degree,” and then, application documents will be accepted.

3. Announcement of Results for Eligibility Screening

Results of the eligibility screening will be sent to the applicants as follows: For the primary application, results will be sent on **June 14, 2017**, and results for the secondary application will be sent on **December 19, 2017**.

Those who have received the confirmation of eligibility should, within the specified period, complete the required items in the attached “Request for Payment by Bank Deposit Transfer (Entrance Examination Fee for the Master’s Program at the Graduate School of Science and Technology, Niigata University)” (「振込依頼書 (新潟大学大学院自然科学研究科博士前期課程入学試験検定料)」), the Transfer Payment and Transfer Fee Receipt (retained by the applicant) (「振込金及び手数料領収書 (志願者保存)」) and the Examination Fee Payment Certificate (for submission to Niigata University) (「検定料納付証明書 (新潟大学提出用)」), take them without detaching to a financial institution (excluding Yuucho Bank and Post Offices) and pay the examination fee at the counter. Make sure that the Payment Certificate has an official stamp of the financial institution handling the payment. After the payment, submit the Examination Fee Payment Certificate (for submission to Niigata University) within the application period.

4. Procedure for Eligibility Screening

Those who wish to apply for the eligibility screening should submit the “Screening Documents” in the following table with the “Application Documents” (excluding the Examination Fee Payment Certificate in ④) detailed in (3) of “4. Application Procedure” by mail or in person to the Academic Affairs Division, Graduate School of Science and Technology, Niigata University.

The deadline for primary application is **Wednesday, June 7, 2017**, and the deadline for secondary application is **Friday, December 1, 2017**.

(A Japanese translation must be appended for any documents, including certificates, which are in a foreign language other than English).

Before applying, applicants are required to contact a key member of staff in the course to which they aim to be admitted or a contact member of the teaching staff.

[Documents Required for Screening]

Screening Document	Instructions
(1) Certificate(s) of Graduation (or Completion)	<ul style="list-style-type: none">• Submit a certificate issued by the President of the university the applicant attended.• Applicants who have completed an advanced course program at a junior college or KOSEN college of technology must submit certificates from both their junior college or KOSEN college of technology and their advanced course programs of the junior college or KOSEN college of technology.

(2) Academic Transcript(s)	<ul style="list-style-type: none"> • Submit an official transcript issued by the President of the university the applicant attended. • Applicants who have completed an advanced course program at a junior college or technical college must submit academic transcripts from both their junior college or KOSEN college of technology and their advanced course programs of the junior college or KOSEN college of technology.
(3) Application Form for Eligibility Screening of Entrance Examination	<ul style="list-style-type: none"> • Fill in the designated form attached in this application guidebook.
(4) Research Achievement Report	<ul style="list-style-type: none"> • Fill in the attached form and submit with copies of the applicant's achievement details, such as publications, academic theses, academic papers, academic lectures, academic reports, patents, etc.
(5) Research Progress Report	<ul style="list-style-type: none"> • Use the attached form to provide details of research and study at educational institutions, research institutions and corporations, after graduating from (or completing) school (including research carried out while in advanced course programs if completed such programs at junior colleges or KOSEN colleges of technology).
(6) Return Envelope (For announcing result of the eligibility screening)	<ul style="list-style-type: none"> • Clearly mark a long envelope with the name, address, and postal code of the applicant and affix postage stamps to the value of 372 yen.

Enclosure 3

List of Course Contact Personnel (Master's Program)

Major	Course	Contact	Number
Fundamental Sciences	Physics	OHTSUBO Takashi	(025)262-6269
	Chemistry	TAYAMA Eiji	(025)262-7741
	Mathematical Science	HOSHI Akinari	(025)262-7481
Advanced Materials Science and Technology	Materials Science and Technology	TAKIMOTO Tetsuya	(025)262-7744
	Applied Chemistry and Chemical Engineering	KIMURA Isao	(025)262-7194
	Advanced Mechanical Science and Engineering	ABE Takashi	(025)262-6795
Electrical and Information Engineering	Information Engineering	AOTO Takahito	(025)262-6753
	Electrical and Electronic Engineering	SASAKI Shigenobu	(025)262-6737
	Human Sciences and Assistive Technology	HAYASHI Toyohiko	(025)262-7339
Life and Food Sciences	Life Sciences	IWASAKI Toshisuke	(025)262-7533
	Applied Life and Food Sciences	NISHIUMI Tadayuki	(025)262-6663
	Agriculture and Bioresources	HAN Dong-sheng	(025)260-1320
Environmental Science and Technology	Natural Environmental Science	KUBOTA Yoshihiro	(025)262-7534
	Environmental Science for Agriculture and Forestry	MURAKAMI Takuhiko	(025)262-6627
	Architecture and Civil Engineering	NISHIMURA Shin-ya	(025)262-7217
	Earth Science	SHIINO Yuta	(025)262-6186
	Natural Disaster and Environmental Science	URABE Atsushi	(025)262-7057

VI 自然科学研究科の概要 (博士前期課程)

(1) 専攻・コースの概要

【1. 数理物質科学専攻】

物理, 化学, 数学関係の教育者が有機的に集まった教育体系により, 宇宙規模から, ミクロな素粒子の領域まで, 最前線の教育研究を行います。物質の性質と自然の仕組みを基本から理解し, かつ各種実験技術を習得し, 社会で活躍できる優れた人材, および研究の最前線の体験により得られた見識と独創性を生かせる教育研究者の養成を目指します。

コース名	コースの概要
物理学	量子科学の分野では, 最先端の量子科学的手法を駆使し, 凝縮体の電子・イオン物性の量子レベルからの解折と新物質の探索・物性予知の先端的研究を行います。21世紀のIT, ナノ, バイオの研究を支える知的基盤としての量子科学の最新の研究・探究を行うと共に, 国内外の先端研究者との共同実験・研究も行います。粒子・宇宙物理学の分野では, 物質の基本構成要素としての素粒子, 原子核, それらの集合体の宇宙, およびビッグバンからのシナリオを基本粒子間の力とその基本量子法則に基づいて探究する研究を行います。物理教育の分野では, 大学・高校の物理授業におけるアクティブ・ラーニング型教授法やICT活用, 物理教育史について研究を行います。さまざまな物質構造の基本を理解し, 研究の最前線の体験を通して情報の収集の能力を備えた教育研究者の養成を目指します。
化学	原子核から無機物質, 有機物質, 生体高分子におよぶ様々な物質の化学的性質, 構造や反応について, 実験および理論に基づき原子・分子レベルから解明します。重元素の核的・化学的性質の解明, イオン・分子の光反応素過程の解明と反応制御, 物質の固体・液体状態, 相転移現象に伴う構造とダイナミクスの解明, 磁性分子の新機能開発, 微量金属イオンの溶液内反応と構造に基づく分離・濃縮定量法の開発, 有機化合物の構造と反応機構に基づく新合成法開発と機能物質創製, ゲノム情報を利用した生体高分子の機能解析と生体組織の高次機能解明について教育研究を行います。
数理学	本コースでは, 秩序立てた論理的な考え方と問題解決能力を有した人材の育成を目指し, 数学, 情報学の理論と応用について教育研究を行います。特に, 作用素論, 作用素環論, 非線形解析学, 凸解析学, 偏微分方程式論, 可換環論, 代数幾何学, 数論, トポロジー, 微分幾何学, グラフ理論, 時系列解析や数理ファイナンスなどの数理統計学の理論, 数理計画やオペレーションズ・リサーチなどの最適化理論, 数値シミュレーションなどについて教育研究を行います。

【2. 材料生産システム専攻】

本専攻は、材料系、化学系、機械系の教員で構成され、異分野領域技術の融合による先端材料の創製、新機能性物質と新材料の設計・開発・評価、高機能性材料の化学的開発と環境調和型生産プロセス、および機械基盤科学・生産システム科学・材料制御科学に関する教育研究を行います。また、知的材料の開発研究から実製品への応用開発や循環型社会形成に必要な廃棄・再資源化を考慮した材料開発に対応できる材料に関する高度な総合科学的知識を身につけた問題発見能力を有する人材の育成を行います。

コース名	コースの概要
機能材料科学	<p>次世代機能性材料の物性探索・解明，材料設計・開発および評価に対処しうる人材の育成のための総合的な教育研究を行います。</p> <p>超伝導・磁性材料，薄膜太陽電池や光エレクトロニクス材料，金属－水素系材料の開発・応用，核スピンのエレクトロニクス等のエネルギー材料を基礎として，材料科学の基礎理論と技術に係わる教育研究を行います。</p> <p>付加価値が高く，環境に配慮したエネルギー変換材料，精密構造材料，ハイブリッド材料，生体触媒，再生医療材料等のナノ材料の創製を基礎として，材料科学の基礎理論と技術に係わる教育研究を行います。</p>
素材生産科学	<p>応用化学の分野では，原子・分子レベルからその集合体の設計，合成，機能解析に基づく無機，有機，高分子およびそれら複合体から構成される新規高機能性物質・材料の開発，太陽エネルギーの化学エネルギーへの変換，廃棄物を出さない化学変換，環境分析・評価などの環境負荷低減のための化学技術の応用に関する教育研究を行います。また，化学工学の分野では，高機能性材料の開発，低環境負荷型生産技術の開発などを通して持続可能社会の構築に貢献できる研究者・技術者を養成します。そのために，各種材料の高次構造を設計開発する手法やエネルギーや環境に配慮して工業的規模で生産する技術，環境保全技術を俯瞰的視点から教育研究を行います。</p>
機械科学	<p>ナノからマクロのレベルでの機械，材料，生産システムに関わる技術開発，材料制御技術開発，機械装置の超機能性，生体機械工学に基づく高機能性デバイス開発，機械や装置の安定性と安全性評価等に対応しうる人材育成を目指した教育研究を行います。高機能性材料などの設計・製造・開発・応用，生産システムを構築する機械・構造系の動的特性の統合解析，MEMSによる革新的物性・機能付与を推進し，社会が求める人材の育成を行います。</p>

【3. 電気情報工学専攻】

数理学、情報科学、情報通信、電気電子工学、機械工学、医療工学のいずれかの分野において、深い専門的知識と高度の応用力をもち、幅広い視野と豊かな人間性・倫理性、コミュニケーション能力を備え、教育・研究・開発・設計・製造・企画・管理など知的で創造的な業務に従事する高度な専門的職業人として活躍し、安全・安心・健康な社会の創造や産業界の発展に貢献できる人材を育成します。

コース名	コースの概要
情報工学	<p>本コースでは、知能情報、情報通信技術、および情報数理の教育研究を通して、社会や産業界に貢献し、高度情報化社会の将来を担う人材の育成を目指します。知能情報分野においては、メディア情報の分析と生成、人間とコンピュータ間の円滑な情報交換技術、人工知能、空間情報システム、数理的アプローチによる分析と構成手法の確立などの教育研究に力を入れています。情報通信分野においては、特に、移動通信、ネットワーク工学、アドホックネットワーク、波動情報工学に関する教育研究を行います。情報数理分野においては、代数学、解析学などの教育研究を行います。</p>
電気電子工学	<p>電力・エネルギーシステムやエレクトロニクス、情報通信システムなど、社会の発展を支える電気電子工学の分野に関する基礎から応用まで専門知識を深めるための教育研究を行います。特に、電力・エネルギー機器、プラズマ理工学、超伝導電力システム、超伝導応用工学、薄膜工学、有機エレクトロニクス、バイオエレクトロニクス、分子・光電子デバイス、ナノフォトニクス、量子エレクトロニクス、光応用計測、光画像処理、通信システム、信号処理工学、画像工学、映像情報処理などに関する最先端の研究を行うとともに、指導的な立場で幅広く活躍できる電気電子技術者や研究者を育成する教育を行います。</p>
人間支援科学	<p>急速に進む「社会の少子高齢化」に対応するため、医療・生体・福祉のリテラシーをもつ電子・情報・機械関連分野および生体医工学・健康科学・福祉工学のリテラシーをもつ医療・介護・福祉関連分野の人材育成を目指します。高齢者・障害者を含むあらゆる人間の生活向上と自立生活を支援する医療・福祉工学と生活支援科学技術に関連して、生体計測・制御、生体生理工学、生体信号処理・解釈、ヒューマンインターフェース、医用機器、バイオメカニクス、メカトロニクス、支援機器工学、生活・社会環境の分析と最適制御、スポーツ科学、ウェルネス論、人間工学、ユニバーサルデザイン、リハビリテーション工学などの教育研究を行います。</p>

【4. 生命・食料科学専攻】

生物学の基礎から農学，さらにその関連産業部門までの幅広い応用領域をカバーしており，ゲノムからポストゲノムへと展開する現代の生命科学の潮流をふまえ，生命現象の根源的理解，新技術の開発，地域の産業や環境の改善に先駆的かつ多面的に対応する人材の養成を行います。学部における専門教育の内容に関わりなく，「食と農」，「環境との調和」に強い関心を有する学生を幅広く受け入れます。

コース名	コースの概要
基礎生命科学	<p>動植物の発生・形態形成，器官分化，細胞分化，細胞間相互作用，環境応答，遺伝情報発現，細胞小器官，細胞内超分子構造，タンパク質や糖鎖など，生物個体レベルから分子レベルにわたる各種の視点から，生命科学の時代にふさわしい先端的な基礎生物学の教育・研究を行います。学生には，細分化された個々の専門分野にとらわれすぎることなく，生命現象に関する幅広い知識と視野を身につける姿勢が望まれます。</p>
応用生命・食品科学	<p>本コースでは，バイオサイエンス・バイオテクノロジーに関する専門知識・技術を習得し，生物関連分野で活躍できる優れた人材の育成を目指しています。生物の有用機能を応用することにより生物資源・食品・環境に関する諸課題を解決することを目標とし，植物および微生物ゲノムの機能とその制御，微生物が生産する生理活生物質，酵素およびその遺伝子の高度利用，有用植物の作出・育種，高品質多収栽培，施肥管理，土壌－微生物－植物間相互作用，地球環境の保全・修復，木質バイオマス資源の開発・有効利用，持続可能な農林業生産，食品の原材料，加工・製造技術，栄養・生理機能，安全性，機能性食品素材の開発に関する先端的な研究を行います。</p>
生物資源科学	<p>基礎農学，フィールドサイエンス，バイオテクノロジーなどの技術的研究を通じて農業を支える植物・動物資源の生産機構の改善と生産性向上，複合的生態系の維持に関する諸問題の解決に必要な研究を行うとともに，農山村開発，持続的な農業の発達，農林産物流通など関連産業の振興に関する諸問題の解決に必要な研究を行います。このため，食料・資源管理学分野，資源植物生産学分野，資源動物科学分野の3分野が設けられています。</p>

【5. 環境科学専攻】

日本の代表的な多雪地域で日本海に面する新潟から東北アジア,さらには地球的規模までといった幅広い領域を対象としてその環境と構造を探究し,グローバルな視野で地圏・水圏・生物圏と人間社会との相互関係を理解し,研究の最前線の体験を通して自然環境から都市・農山村環境を創り出せる独創性に富む人材の養成を行います。また,外国人と十分意志疎通のできる国際性豊かな人材を育てます。

コース名	コースの概要
自然システム科学	<p>物理学・地球科学・化学・生物学にわたる基礎理学の学習で得られた知識を適用し,グローバルな視点から,環境システムの維持機構を多角的に解明できる人材の育成を行います。この目的の実現のために,超高層大気中における原子分子反応過程や大気・海洋現象の物理学的解析,機能性材料や光エネルギー変換物質の物理化学的特性の理解,環境関連物質の循環機構の解明などの物質やエネルギーの循環機構を理解できる能力を身につけるための教育・研究や,地質の発達過程やそれに伴うさまざまな地球科学的諸現象の理解,生物の遺伝的多様性と環境適応機構の解明などを通して,地圏や生物圏における環境を把握し,理解できる能力を身につけるための教育・研究を行います。</p>
流域環境学	<p>流域を人の生活や資源循環の一単位と考え,人間の生存基盤を提供する森林と,人間が働きかけ食料を得る場としての農地・農業を支える,森林科学・農業工学の研究を行って,人と自然の共生を可能にする知識の蓄積と技術の開発を目指します。また,世界的にも希な多雪地域であり,独特の水循環形態と動植物の生息環境が形成されてきた新潟の地にあつて,地球温暖化の影響を強く受けると考えられる水・物質循環,農林環境,農業生産活動および生態系の変動について,最先端の研究を行います。森林生態系生物学,森林資源保全・利用学,地域管理工学,農業システム工学,農業環境情報学,水循環変動学および生態系変動学の研究分野で構成されます。</p>
社会基盤・建築学	<p>都市と人間および自然環境との持続可能な共生システムの構築を目指し,社会基盤工学・建築学・都市工学に関する基礎的な知識と,豊かな計画・分析・解析力をもった環境創造技術者および建築家を養成します。具体的には,各種災害から都市・建築および人間の安全性を確保するための社会基盤施設・建築構造物の構築技術を始め,快適で安全な居住環境と自然との共生を目指した住宅・建築・都市などの空間の構成・設計計画手法や法制度,河川等の水域環境の物理的挙動・水質の解析・評価技術,および都市の景観形成とその歴史的変遷について評価・計画・活用するための技術などに関する教育研究を対象としています。</p>
地球科学	<p>人類をとりまく重要な環境要素である陸域や海洋底の地層・岩石・鉱物・化石などを対象に,それらのマクロ的・ミクロ的特質を野外地質調査に根ざした地質学的研究手法で探究し,岩圏と生物圏それぞれの性質と相互作用を地球の歴史的視点から解明します。この解明を通じ,鉱物の結晶構造,海洋の形成,大陸の成長,地震活動,火山活動,表層の環境変遷,生物相の移り変わりなど,地殻～上部マントル中に記録された地球システムのダイナミックな変動の性質を理解し,国土の開発,防災,地下資源の探査,地球環境問題への取り組みなどをはじめとする幅広い分野で社会貢献できる人材の育成を目指します。</p>
災害環境科	<p>人の生活基盤である都市から中山間地にかけての雪氷・斜面・洪水・火山土砂・地盤災害などとそれらの複合災害について,履歴解明,発生機構・予測などの基礎研究をもとに,総合的な防・減災対策の教育・研究を行います。また,近年顕在化する,急速な環境変動・社会変化にともなう災害発現の多種多様な変容への技術・対策への応用面も学びます。これらの活動を通して,問題の発見,解決,説明の三つの能力を一体的に運用できる人材を養成します。</p>

(2) 所属教員・研究内容一覧

- (注1) 本一覧は、平成29年4月1日現在の本研究科の教員について記載したものです。
- (注2) 指導教員について、教員によっては学生の受入れができない場合がありますので、出願に際しては、志望するコース教員又はコース主任（連絡先）にあらかじめ問い合わせてください。
- (注3) 担当教員の情報は、「<http://www.gs.niigata-u.ac.jp/~gsweb/mbrlist/index.html>」も参照してください。

○ 所属教員・研究内容一覧

<数理物質科学専攻>

コ	一	ス	所 属 教 員	職 名	所 属	研 究 内 容
物	理	学	根 本 祐 一	准教授	自然科学系(院自然)	強相関電子系の低温物理
			大 野 義 章	教 授	自然科学系(理学部)	強相関電子系の理論的研究
			浅 賀 岳 彦	准教授	自然科学系(理学部)	素粒子統一モデルと初期宇宙の物理現象
			宮 田 等	教 授	自然科学系(理学部)	素粒子物理学の実験的研究
			中 野 博 章	准教授	自然科学系(理学部)	超対称性に基づく素粒子の統一モデル
			小 池 裕 司	教 授	自然科学系(理学部)	量子色力学を基礎にしたハドロン物理学
			松 尾 正 之	教 授	自然科学系(理学部)	原子核構造の理論, 不安定核, 集団運動
			大 坪 隆	准教授	自然科学系(理学部)	不安定核の核構造の実験的研究
			大 原 謙 一	教 授	自然科学系(院自然)	一般相対論的天体物理学, 重力波天文学
			西 亮 一	准教授	自然科学系(院自然)	天体の構造, 形成および進化の研究
			奥 西 巧 一	准教授	自然科学系(理学部)	量子スピン系の理論
			撰 待 力 生	教 授	自然科学系(理学部)	重い電子系の単結晶育成と極限下物性実験
			石 川 文 洋	准教授	自然科学系(理学部)	高圧下における超伝導と磁性の研究
			渡 辺 一 也	助 教	自然科学系(理学部)	相対論、および相対論的宇宙論
			遊 佐 洋 右	助 教	自然科学系(院自然)	加速器実験による素粒子物理学の研究
			赤 津 光 洋	助 教	自然科学系(理学部)	強相関電子系の極限物性実験
			廣 瀬 雄 介	助 教	自然科学系(理学部)	希土類化合物の単結晶育成と磁性と超伝導
			江 尻 信 司	准教授	自然科学系(理学部)	高温高密度での量子色力学の研究
			武 智 麻 耶	助 教	自然科学系(院自然)	原子核反応実験を通じた不安定核核半径・構造研究
			吉 森 明	教 授	自然科学系(理学部)	化学物理学の理論的研究
			早 坂 圭 司	准教授	自然科学系(理学部)	加速器実験による素粒子物理学の研究
			伊 藤 克 美	教 授	人文社会・教育科学系 (教 育 学 部)	非摂動くりこみ群の研究
			興 治 文 子	准教授	人文社会・教育科学系 (教 育 学 部)	物理教育研究
岸 本 功	准教授	人文社会・教育科学系 (教 育 学 部)	弦の場の理論、超弦理論			
土 佐 幸 子	教 授	人文社会・教育科学系 (教 育 学 部)	物理教育研究			
化	学	梅 林 泰 宏	教 授	自然科学系(院自然)	環境適合性反応場の探索とナノ凝縮系科学の創生	
		佐 藤 敬 一	准教授	自然科学系(理学部)	人工キレート剤と種々の金属の分離・定量	
		後 藤 真 一	准教授	自然科学系(院自然)	原子核分裂機構に関する研究、超アクチノイド元素の化学的性質に関する研究	
		田 山 英 治	准教授	自然科学系(理学部)	カルボアニオン種の転位と脱離	
		長 谷 川 英 悦	教 授	自然科学系(理学部)	有機化合物の電子移動反応およびフリーラジカル反応	
		岩 本 啓	准教授	自然科学系(院自然)	トポロジカル分子(カテナン, ロタキサン)の合成と機能化	

<数理物質科学専攻>

コース	所属教員	職名	所属	研究内容
化学	古川 和広	教授	自然科学系(理学部)	生体高次機能制御における細胞核機能学
	丸山 健二	教授	自然科学系(理学部)	液体カルコゲン系の構造、カルコゲン化合物のマイクロクラスター
	大鳥 範和	教授	自然科学系(理学部)	液体およびガラスの構造と輸送係数
	生駒 忠昭	教授	自然科学系(理学部)	有機半導体における光伝導に対するスピン効果
	俣野 善博	教授	自然科学系(理学部)	典型元素を含む有機分子に関する研究
	大江 一弘	助教	自然科学系(院自然)	超重元素の溶液化学的研究
	三浦 智明	助教	自然科学系(理学部)	複雑系における光誘起電子移動に関する実験的研究
	中馬 吉郎	准教授	自然科学系(理学部)	翻訳後修飾酵素によるタンパク質制御機構と疾患に関する研究
	古川 貢	准教授	研究推進機構共用設備 基盤 センター	磁気共鳴法による機能性物質の新規機能性の探索とメカニズム解明研究
数理科学	渡邊 恵一	教授	自然科学系(理学部)	作用素がなす非可換空間の構造
	羽鳥 理	教授	自然科学系(理学部)	バナッハ環に関わる保存問題の研究
	印南 信宏	教授	自然科学系(理学部)	微分幾何学, 測地線の幾何学, 曲線族の微分幾何学
	蛭川 潤一	准教授	自然科学系(理学部)	時系列解析の理論とその応用
	田中 環	教授	自然科学系(院自然)	ベクトル最適化問題の解析的研究
	山田 修司	教授	自然科学系(理学部)	数理システムの大域的最適化
	鈴木 有祐	准教授	自然科学系(理学部)	閉曲面上に埋め込まれたグラフに関する研究
	應和 宏樹	准教授	自然科学系(理学部)	偏微分方程式の解の存在と一意性に関する研究
	三浦 毅	教授	自然科学系(理学部)	Banach環上の保存問題
	星 明考	准教授	自然科学系(理学部)	数論, 代数学
	小島 秀雄	教授	自然科学系(理学部)	開代数多様体に関する研究
	家富 洋	教授	自然科学系(理学部)	経済・社会現象の数理的研究
	劉 雪峰	准教授	自然科学系(院自然)	微分方程式の数値計算と誤差解析
	長谷川 敬三	教授	人文社会・教育科学系(教育学部)	複素幾何学, 等質多様体上の複素幾何学的構造の研究
	張間 忠人	教授	人文社会・教育科学系(教育学部)	多項式環の斉次イデアルに関する研究
	伏木 忠義	准教授	人文社会・教育科学系(教育学部)	多変量解析, 統計的予測
渡邊 道之	准教授	人文社会・教育科学系(教育学部)	偏微分方程式の散乱理論と逆問題の研究	

<材料生産システム専攻>

コ	一	ス	所属教員	職名	所属	研究	内容
機能材料科学			坪井望	教授	自然科学系(工学部)	※物	半導体光物性, 電子・電気材料工学
			佐々木進	准教授	自然科学系(工学部)	※物	核スピントロニクスと量子物性
			武田直也	教授	自然科学系(工学部)	※物	磁性化合物, 超伝導体の物性及び開発
			中野智仁	准教授	自然科学系(院自然)	※物	超伝導体、磁性体の開発と極限環境下電子物性
			村上貴洋	助教	自然科学系(工学部)	※物	水素エネルギー関連材料
			八木政行	教授	自然科学系(工学部)	※開	無機ナノ材料、光-化学エネルギー変換材料
			山内健	教授	自然科学系(工学部)	※開	高分子複合材料, 生体模倣材料
			谷口正之	教授	自然科学系(工学部)	※開	食品機能工学、生物機能工学
			田中孝明	教授	自然科学系(工学部)	※開	生物材料工学、生物化学工学
			大木基史	准教授	自然科学系(工学部)	※開	機能性薄膜材料の開発および機械的特性評価
			由井樹人	准教授	自然科学系(工学部)	※開	光化学、光機能材料
			落合秋人	助教	自然科学系(工学部)	※開	生物機能工学, タンパク質工学
			三俣哲	准教授	自然科学系(工学部)	※開	刺激応答性ソフトマテリアルの合成と物性評価
			石川亮佑	助教	自然科学系(工学部)	※物	半導体光物性, 太陽電池材料
			瀧本哲也	教授	自然科学系(工学部)	※物	強相関電子系の新奇物性の理論的解明及び提案
		齊藤健二	准教授	自然科学系(工学部)	※開	光触媒、多孔性無機結晶	
素材生産科学			青木俊樹	教授	自然科学系(工学部)	※応	新規な機能性高分子の新規合成法
			金子隆司	教授	自然科学系(院自然)	※応	(主に電子)機能性高分子の設計と合成
			児玉竜也	教授	自然科学系(工学部)	※応	高温太陽熱の化学燃料転換に関する研究
			佐藤峰夫	教授	自然科学系(工学部)	※応	機能性無機材料の合成と物性評価
			鈴木敏夫	教授	自然科学系(工学部)	※応	天然有機化合物の合成研究
			狩野直樹	准教授	自然科学系(工学部)	※応	環境動態の解析・解明と影響評価
			戸田健司	准教授	自然科学系(院自然)	※応	無機固体材料の設計と評価
			李留云	助教	自然科学系(工学部)	※化	バイオマス・低品位石炭資源の効率的な利用方法の研究
			木村勇雄	教授	自然科学系(工学部)	※化	微粒子材料の構造設計と作製
			金熙濬	教授	自然科学系(工学部)	※化	汚泥灰からリン回収と循環社会へ応用、石炭の高品質化
			清水忠明	教授	自然科学系(工学部)	※化	資源エネルギー有効利用プロセスを設計する
			山際和明	教授	自然科学系(院自然)	※化	生物学的水環境保全技術の開発

※物は物性系, ※開は開発系, ※応は応用化学系, ※化は化学工学系を示します。

<材料生産システム専攻>

コ	ー	ス	所 属 教 員	職 名	所 属	研 究 内 容
素材生産科学			田 口 佳 成	准教授	自然科学系(工学部)	※化 ナノ・マイクロカプセル, 複合微粒子の調製
			多 島 秀 男	准教授	自然科学系(院自然)	※化 環境分離プロセスの設計と開発, 分離材料調製
			三 上 貴 司	准教授	自然科学系(工学部)	※化 希望品質の結晶粒子群を製造するための単位操作研究
			星 隆 助	教 授	自然科学系(工学部)	※応 遷移金属触媒を用いる有機合成反応の開発研究
			寺 口 昌 宏	助 教	自然科学系(工学部)	※応 機能性高分子の合成と分離機能の開発
			小 松 博 幸	助 教	自然科学系(工学部)	※化 ガス分離技術の開発および媒体の物性評価
機械科学			田 邊 裕 治	教 授	自然科学系(工学部)	材料特性の同定, 衝撃破壊力学
			鳴 海 敬 倫	教 授	自然科学系(工学部)	機能性流体, 複雑流体の流動
			松 原 幸 治	教 授	自然科学系(工学部)	熱工学, 乱流伝熱
			新 田 勇	教 授	自然科学系(工学部)	機械要素, トライボロジー
			藤 澤 延 行	教 授	自然科学系(工学部)	可視化法とその応用
			田 村 武 夫	准教授	自然科学系(工学部)	材料の表面改質
			坂 本 秀 一	准教授	自然科学系(工学部)	機械の騒音低減, 音響を利用した計測
			安 部 隆	教 授	自然科学系(院自然)	センサ・マイクロマシン, ナノテクノロジー
			横 山 誠	准教授	自然科学系(工学部)	非線形システムの同定と制御
			平 元 和 彦	教 授	自然科学系(工学部)	機械力学と制御
			川 崎 一 正	准教授	自然科学系(工学部)	機械要素, 歯車工学
			櫻 井 篤	准教授	自然科学系(工学部)	熱工学, 光工学, 新エネルギー変換
			山 縣 貴 幸	助 教	自然科学系(工学部)	可視化情報, 流体工学
			佐 々 木 朋 裕	准教授	自然科学系(院自然)	金属工学, 材料加工
			牛 田 晃 臣	助 教	自然科学系(工学部)	流体工学, 環境負荷低減技術
			月 山 陽 介	助 教	自然科学系(工学部)	トライボロジー, 機械要素
			寒 川 雅 之	准教授	自然科学系(工学部)	マイクロ・ナノデバイス
			プラムディ ジョナス	助 教	自然科学系(工学部)	バイオメカニクス, 有限要素解析
			鈴木 賢治	教 授	人文社会・教育科学 系(教育学部)	材料強度学, X線応力評価
			平尾 篤利	准教授	人文社会・教育科学 系(教育学部)	生産工学, 加工学

※物は物性系, ※開は開発系, ※応は応用化学系, ※化は化学工学系を示します。

<電気情報工学専攻>

コ	一	ス	所 属 教 員	職 名	所 属	研 究 内 容
情報工学			青戸 等人	教授	自然科学系(工学部)	書き換えシステム, 定理自動証明, ソフトウェア基礎
			阿部 貴志	准教授	自然科学系(工学部)	バイオインフォマティクス
			榎本 洸一郎	助教	自然科学系(院自然)	画像処理, 画像認識, 画像計測
			柄沢 直之	助教	自然科学系(工学部)	情報ネットワーク工学
			管野 政明	准教授	自然科学系(工学部)	制御しやすいシステムの特徴づけ, 数値・数式ハイブリッド最適化手法
			酒匂 宏樹	准教授	自然科学系(工学部)	関数解析 距離空間の幾何学
			佐藤 亮一	教授	人文社会・教育科学系(教育学部)	電波伝搬解析手法の開発, 偏波レーダを用いた災害観測・自然植生観測に関する研究
			高橋 剛	准教授	自然科学系(工学部)	代数幾何学
			高橋 俊彦	准教授	自然科学系(院自然)	組合せアルゴリズム
			中野 敬介	教授	自然科学系(工学部)	ネットワーク工学, 移動情報ネットワーク
			永幡 幸生	教授	自然科学系(工学部)	確率論
			西森 健太郎	准教授	自然科学系(工学部)	MIMO技術を用いた屋内, スポット測位に関する研究
			萩原 威志	助教	自然科学系(工学部)	属性文法応用システム, ウェブベースソフトウェア
			林 貴宏	准教授	自然科学系(工学部)	マルチメディア情報検索, インタラクティブシステム
			林 隆史	教授	自然科学系(工学部)	情報セキュリティ, 次世代情報基盤とその応用, センサーネット, 系列設計とその応用, 統計数理工学
			牧野 秀夫	教授	自然科学系(工学部)	医療・福祉・環境情報機器の研究
			元木 達也	准教授	自然科学系(工学部)	進化的計算
			山口 芳雄	教授	自然科学系(工学部)	波動の性質とその応用
			山崎 達也	教授	自然科学系(院自然)	情報通信工学
		山田 寛喜	教授	自然科学系(工学部)	無線信号処理, レーダ, 無線通信システム, アレーアンテナ	
		山本 征法	准教授	自然科学系(工学部)	解析学, 非線形偏微分方程式	
電気電子工学			大平 泰生	准教授	自然科学系(工学部)	ナノフォトニクス, 量子エレクトロニクス
			岡 徹雄	教授	自然科学系(工学部)	高温超伝導バルク材と磁石応用
			岡 寿樹	准教授	自然科学系(工学部)	共振器量子電気力学, 量子光学
			小川 純	准教授	自然科学系(工学部)	応用超電導工学
			小椋 一夫	教授	自然科学系(工学部)	プラズマ科学, ミリ波・テラヘルツ波, パルスパワー工学
			加藤 景三	教授	自然科学系(院自然)	電気電子材料・デバイス, 有機エレクトロニクス
			金 ミンソク	准教授	自然科学系(工学部)	電波伝搬, 時空間信号処理, ソフトウェア無線
			佐々木 重信	教授	自然科学系(工学部)	スペクトル拡散通信, 無線通信システム
			佐藤 孝	教授	自然科学系(工学部)	半導体レーザーの波長安定化

<電気情報工学専攻>

コ	一	ス	所属教員	職名	所属	研究内容
電気電子工学			清水 英彦	准教授	自然科学系(工学部)	薄膜構造制御
			新保 一成	教授	自然科学系(工学部)	電子・光デバイス, 電子機器
			菅原 晃	准教授	自然科学系(工学部)	高電圧大電流工学, 風力発電
			鈴木 孝昌	教授	自然科学系(院自然)	計測・制御, 光情報処理システム
			崔 森悦	助教	自然科学系(工学部)	光計測, 光センシング
			馬場 暁	准教授	自然科学系(工学部)	有機エレクトロニクス, バイオフィotonics
			福井 聡	教授	自然科学系(工学部)	超伝導応用機器, 先端超伝導材料
			村松 正吾	准教授	自然科学系(工学部)	マルチレート信号処理, 画像処理
			山家 清之	准教授	自然科学系(院自然)	プラズマ理工学, プラズマ応用, プラズマプロセス
			LERTVACHIR APAIBOON CHUTIPARN	助教	自然科学系(院自然)	有機エレクトロニクス, バイオフィotonics
人間支援科学			飯島 淳彦	准教授	自然科学系(工学部)	神経生理学, 生体医工学, 視覚認知
			石井 望	准教授	自然科学系(工学部)	生体電磁環境工学, アンテナ工学, 電磁波工学
			今村 孝	准教授	自然科学系(工学部)	生体行動の計測・制御工学, 移動支援, 機構設計学
			岩城 護	准教授	自然科学系(院自然)	信号処理, 音声工学, 聴覚心理
			牛山 幸彦	教授	人文社会・教育科学系 (教育学部)	スポーツバイオメカニクス, コーチング科学, スポーツ用具工学
			大河 正志	教授	自然科学系(工学部)	センシングデバイス, 光エレクトロニクス
			木竜 徹	教授	自然科学系(院自然)	時変性生体信号の多次元処理
			郷 晃	教授	人文社会・教育科学系 (教育学部)	彫刻表現, 立体造形, 環境造形
			棚橋 重仁	助教	自然科学系(院自然)	視覚光学, 心理物理学, 多感覚統合
			橋本 学	准教授	人文社会・教育科学系 (教育学部)	用と美との融合表現における, 生活・環境デザインの提案
			林 豊彦	教授	自然科学系(工学部)	生活支援工学, 医用生体工学
			堀 潤一	教授	自然科学系(工学部)	生体医工学, 支援機器工学
			前田 義信	教授	自然科学系(工学部)	福祉生体分野のモデリングと構造分析
			三村 宣治	教授	自然科学系(工学部)	ロボティクス, 制御工学
			村山 敏夫	准教授	人文社会・教育科学系 (教育学部)	健康工学, 健康生理学, 運動機能解析, 測定評価
		渡辺 哲也	准教授	自然科学系(工学部)	視覚障害者支援技術, 触知覚, ヒューマンインタフェース	

<生命・食料科学専攻>

コ	一	ス	所 属 教 員	職 名	所 属	研 究 内 容
基礎生命科学			杉 本 健 吉	准 教 授	自然科学系(院自然)	造血制御機構の研究, 血管新生機構の研究, 変温動物の血液細胞に関する研究
			長 束 俊 治	教 授	自然科学系(理学部)	糖鎖情報解読のための生化学的研究
			内 海 利 男	教 授	自然科学系(理学部)	遺伝情報翻訳反応の分子生物学
			前 野 貢	教 授	自然科学系(院自然)	胚軸形成, 胚血球分化の制御機構
			西 川 周 一	教 授	自然科学系(理学部)	小胞体機能による植物生活環の制御機構
			酒 井 達 也	教 授	自然科学系(理学部)	突然変異体を用いた植物の環境応答機構の研究
			岩 崎 俊 介	准 教 授	自然科学系(理学部)	タンパク質の核-細胞質間輸送による植物機能制御
			安 東 宏 徳	教 授	自然科学系(理学部)	海洋動物の環境適応の脳内機構
			加 藤 朗	准 教 授	自然科学系(理学部)	植物ペルオキシソームの形成・分化機構
			井 筒 ゆ み	准 教 授	自然科学系(理学部)	発生生物学・免疫学, 脊椎動物の器官形成における幼生細胞のアポトーシスと免疫系の働き
			伊 東 孝 祐	助 教	自然科学系(理学部)	遺伝子の翻訳反応に関する生体分子の構造機能解析
			藤 間 真 紀	助 教	自然科学系(理学部)	免疫応答の分子細胞学的研究
			鈴 木 詔 子	助 教	自然科学系(院自然)	生物種特異的な糖鎖の構造解析と糖転移酵素の研究
			飯 田 碧	助 教	自然科学系(理学部)	通し回遊性魚類の生態, 水生生物の分散・滞留機構
応用生命・食品科学			末 吉 邦	教 授	自然科学系(農学部)	植物における窒素吸収・同化の制御機構
			三 ッ 井 敏 明	教 授	自然科学系(農学部)	高温登熟耐性イネの開発研究
			金 古 堅 太 郎	助 教	自然科学系(院自然)	プロテオミクス解析を用いたイネのストレス応答に関わる分子機構の解明
			伊 藤 紀 美 子	教 授	自然科学系(農学部)	イネ翻訳後修飾因子の研究と新奇物性を持つデンブンの開発
			大 竹 憲 邦	准 教 授	自然科学系(農学部)	ダイズ種子貯蔵タンパク質集積調節機構
			佐 藤 努	准 教 授	自然科学系(農学部)	微生物の生産する生理活性物質の探索・機能・生合成
			城 斗 志 夫	教 授	自然科学系(農学部)	食品のおいしさや機能性に関する研究
			鈴 木 一 史	准 教 授	自然科学系(農学部)	細菌の遺伝子発現制御機構
			中 井 博 之	准 教 授	自然科学系(農学部)	機能性糖質の生産開発
			西 海 理 之	教 授	自然科学系(農学部)	高圧食品科学に関する研究, 食肉の物性制御と結合組織の構造・機能に関する研究
			原 崇	准 教 授	自然科学系(農学部)	食品成分の免疫制御機能
			原 田 直 樹	准 教 授	自然科学系(農学部)	土壌微生物の機能解析と環境修復等への利用, 農地における放射性物質の挙動と作物吸収の抑制
			藤 村 忍	准 教 授	自然科学系(農学部)	筋肉タンパク質代謝及び食肉機能の調節
			三 亀 啓 吾	准 教 授	自然科学系(農学部)	植物成分からの機能性物質の製造
		杉 本 華 幸	准 教 授	自然科学系(院自然)	糖質加水分解酵素の構造と機能に関する研究	
		野 中 昌 法	教 授	技術経営研究科	放射性物質の農業生態系における挙動解析	

<生命・食料科学専攻>

コ	一	ス	所 属 教 員	職 名	所 属	研 究 名 内 容
生物資源科学			木 南 莉 莉	教 授	自然科学系(農学部)	経済発展と食料・農業・環境問題に関する研究
			清 野 誠 喜	教 授	自然科学系(農学部)	食品産業及び農業におけるマーケティング研究
			平 泉 光 一	准 教 授	自然科学系(農学部)	農業技術構造と地域農業管理の研究
			伊 藤 亮 司	助 教	自然科学系(農学部)	食品産業の経済構造, 地場農産加工業の展開と原料農産物市場との関係に関する研究
			古 澤 慎 一	助 教	自然科学系(農学部)	農業資源管理とコミュニティビジネスに関する研究
			西 村 実	教 授	自然科学系(農学部)	環境ストレスに対する作物の反応様式の研究
			岡 崎 桂 一	教 授	自然科学系(農学部)	分子遺伝学的手法による育種
			児 島 清 秀	教 授	自然科学系(院自然)	果樹・蔬菜の発育の分子・生理機構
			高 橋 能 彦	教 授	自然科学系(農学部)	作物生産における肥培管理技術
			中 野 優	教 授	自然科学系(農学部)	植物組織培養技術を用いた増殖・育種
			佐 野 義 孝	准 教 授	自然科学系(農学部)	植物ウイルスの疫学および分子生物学
			韓 東 生	准 教 授	自然科学系(農学部)	野菜生産技術および有機資材の利活用に関する研究
			深 井 英 吾	助 教	自然科学系(農学部)	植物の遺伝的多様性とその育種利用の研究
			大 谷 真 広	助 教	自然科学系(院自然)	バイオテクノロジーを利用した有用園芸植物の作出に関する基礎的・応用的研究
			高 田 良 三	教 授	自然科学系(農学部)	家畜におけるタンパク質・脂肪蓄積の制御機構
			山 田 宜 永	教 授	自然科学系(農学部)	実験動物・家畜における遺伝学的解析
			杉 山 稔 恵	准 教 授	自然科学系(農学部)	動物の骨とカルシウム代謝に関する研究
			板 野 志 郎	准 教 授	自然科学系(農学部)	草地における生態系機能と動物・植物間相互作用に関する研究
			山 城 秀 昭	助 教	自然科学系(農学部)	生殖工学技術の改良・開発とその応用
		吉 田 智 佳 子	助 教	自然科学系(農学部)	家畜における繁殖性向上に関する研究	

<環境科学専攻>

コ	一	ス	所 属 教 員	職 名	所 属	研 究 内 容	
自然システム 科学			副島 浩一	教授	自然科学系(理学部)	多価イオンと物質の相互作用の解明	
			本田 明治	准教授	自然科学系(理学部)	気候変動に関わる大気大循環と異常気象	
			浮田 甚郎	教授	自然科学系(理学部)	大気・海洋・雪氷結合系における素過程の解明	
			松岡 史郎	教授	自然科学系(理学部)	高選択下で行う微量成分の高感度計測法	
			湯川 靖彦	教授	自然科学系(理学部)	異核多核錯体の合成と構造・性質に関する研究	
			臼井 聡	准教授	自然科学系(理学部)	光および熱有機反応機構の理論的・実験的研究	
			久保田 喜裕	准教授	自然科学系(理学部)	資源・環境地質学	
			林 八寿子	准教授	自然科学系(理学部)	植物細胞の環境適応機構とオルガネラの機能形態	
			上井 進也	准教授	自然科学系(理学部)	海藻類の種分化・集団分化	
			酒泉 満	教授	自然科学系(理学部)	脊椎動物の遺伝学, 特に性決定の分子機構	
			奈良間 千之	准教授	自然科学系(理学部)	アジア山岳地域の氷河・氷河災害の現状解明	
			則末 和宏	准教授	自然科学系(理学部)	海洋における微量元素と同位体の分布・循環に関する研究	
			石崎 智美	助教	自然科学系(理学部)	野生植物における被食防衛機構の解明	
			藤村 衡至	助教	自然科学系(理学部)	魚類の形態進化とゲノム進化に関する研究	
			宮崎 勝己	教授	自然科学系(理学部)	海産のものを中心とした無脊椎動物の多様性に関する研究	
	流域環境学			五十嵐 智志	准教授	人文社会・教育科学系 (教育学部)	ランタノイド錯体の合成とその構造・性質に関する研究
				工藤 起来	准教授	人文社会・教育科学系 (教育学部)	社会性昆虫における進化生態学研究
			志賀 隆	准教授	人文社会・教育科学系 (教育学部)	水生植物の系統分類および保全に関する研究	
			粟生田 忠雄	助教	自然科学系(農学部)	土壌の物理化学性と作物生育の関係解明	
			稲葉 一成	助教	自然科学系(農学部)	地下水条件からみた地すべりの発生機構	
			ウイタカ・アンド リュ	准教授	自然科学系(院自然)	山地流域での出水流出過程の水文地形的研究	
			大橋 慎太郎	助教	自然科学系(農学部)	農業生産における石油代替エネルギー利用による地域活性化	
			下保 敏和	准教授	人文社会・教育科学系 (教育学部)	農作業最適化のための情報収集と可視化技術の開発	
			紙谷 智彦	教授	自然科学系(院自然)	生態系の管理が植物種多様性に及ぼす影響	
			権田 豊	准教授	自然科学系(農学部)	溪流における土砂移動現象の解明	
			崎尾 均	教授	自然科学系(農学部)	樹木の生活史と繁殖戦略	
			鈴木 哲也	准教授	自然科学系(農学部)	非破壊検査技術を用いた構造材料の損傷度評価法の開発研究	
			関島 恒夫	教授	自然科学系(農学部)	野生動物の生態と保護・管理	
			中田 誠	教授	自然科学系(農学部)	環境変動および環境汚染が生態系に及ぼす影響	
			中野 和弘	教授	自然科学系(院自然)	農業環境の制御と高品質農業へのシステム化	
		長谷川 英夫	准教授	自然科学系(農学部)	環境保全型農業を支援する農業機械の開発		
		PHONKRIT MANIWARA	助教	自然科学系(院自然)	収穫後農産物の品質管理システムに関する研究		

<環境科学専攻>

コ	一	ス	所 属 教 員	職 名	所 属	研 究 内 容
流域環境学			本間 航介	准教授	自然科学系(農学部)	森林群集の更新動態解析
			箕口 秀夫	教授	自然科学系(農学部)	森林における生物被害の防除と多様性の維持
			村上 拓彦	准教授	自然科学系(農学部)	森林リモートセンシング, 地理空間情報を駆使した生態学的広域空間スケール研究
			元永 佳孝	准教授	自然科学系(農学部)	生物情報のセンシング技術とその利用
			森井 俊廣	教授	自然科学系(農学部)	農業水利施設的设计・機能保全及び環境調和技術の開発
			森口 喜成	准教授	自然科学系(院自然)	無花粉スギの分子育種に向けた研究
			吉川 夏樹	准教授	自然科学系(農学部)	農地の減災・防災機能および農地系における水循環
			坂田 寧代	准教授	自然科学系(農学部)	農村地域における土地利用の歴史的変遷および農地等の区画特性
			望月 翔太	助教	自然科学系(院自然)	地理空間情報を活用した野生動物の保護管理
			阿部 晴恵	助教	自然科学系(農学部)	島嶼及び本州における植物の種分化や生物間相互作用系の研究
社会基盤・ 建築学			阿部 和久	教授	自然科学系(工学部)	※社 応用力学・計算力学
			佐伯 竜彦	教授	自然科学系(工学部)	※社 コンクリート構造物の維持管理方法
			紅 露 一寛	教授	自然科学系(工学部)	※社 社会基盤工学における環境シミュレーション
			斎 藤 豪	准教授	自然科学系(工学部)	※社 建設材料科学
			大 竹 雄	准教授	自然科学系(工学部)	※社 地盤構造物の信頼性評価・リスク評価
			保坂 吉則	助教	自然科学系(工学部)	※社 宅地の地盤防災
			寺 尾 仁	准教授	自然科学系(工学部)	※社・建 都市・地域政策
			西村 伸也	教授	自然科学系(工学部)	※建 建築・デザイン・計画
			加藤 大介	教授	自然科学系(工学部)	※建 鉄筋コンクリート構造の耐震設計法
			土井 希祐	教授	自然科学系(工学部)	※建 鋼コンクリート合成構造の設計方法
			赤林 伸一	教授	自然科学系(院自然)	※建 建築・都市における環境設計
			岡崎 篤行	教授	自然科学系(工学部)	※建 都市景観計画と市民参加
			黒野 弘靖	准教授	自然科学系(工学部)	※建 住居建築とその集合の計画理論
			中村 孝也	准教授	自然科学系(工学部)	※建 コンクリート構造物の耐震性評価
			大嶋 拓也	准教授	自然科学系(工学部)	※建 建築・都市における音環境予測
			松井 大輔	助教	自然科学系(工学部)	※建 都市計画・都市デザイン
			棒 田 恵	助教	自然科学系(工学部)	※建 建築計画・デザイン
		有波 裕貴	助教	自然科学系(院自然)	※建 建築における温熱空気環境と省エネルギー	
地球科学			高澤 栄一	教授	自然科学系(理学部)	上部マントルダイナミクスの岩石学的・地球化学的研究
			豊島 剛志	教授	自然科学系(理学部)	マイロナイト・変形集中・シュードタキライト・地震・地殻のレオロジー
			小林 健太	講師	自然科学系(理学部)	脆性断層・活断層・地震断層に関する構造地質学
			松岡 篤	教授	自然科学系(理学部)	浮遊性原生生物の進化と海洋環境変遷史の研究

※社は社会基盤系, ※建は建築系を示します。

<環境科学専攻>

コ	ー	ス	所 属 教 員	職 名	所 属	研 究 内 容
地球科学			栗原 敏之	准教授	自然科学系(院自然)	微古生物学による顕生代地史の研究
			栗田 裕司	准教授	自然科学系(理学部)	地層記録の解読による堆積盆地発達史の解明
			SATISH KUMAR, MADHUSOODHAN	教 授	自然科学系(理学部)	先カンブリア地質学
			小西 博巳	教 授	自然科学系(院自然)	電子顕微鏡鉱物学
			高橋 俊郎	准教授	自然科学系(理学部)	島弧火山岩の岩石学的・地球化学的研究
			植田 勇人	准教授	自然科学系(理学部)	付加体と高圧変成岩のテクトニクス
			椎野 勇太	准教授	自然科学系(理学部)	古生物の機能形態進化
			藤林 紀枝	教 授	人文社会・教育科学系 (教 育 学 部)	古海底火山の地質学的研究と背弧マグマティズム
			高清水 康博	准教授	人文社会・教育科学系 (教 育 学 部)	堆積組織学, 堆積地質学, および古津波科学等に関する研究
災害環境科学			福岡 浩	教 授	災害・復興科学研究所	斜面災害の発生機構解明と予測技術開発
			河島 克久	教 授	災害・復興科学研究所	温暖多雪地域の気象・雪氷災害のメカニズム解明と対策技術
			ト部 厚志	准教授	災害・復興科学研究所	平野地盤災害の特徴と防災
			片岡 香子	准教授	災害・復興科学研究所	火山噴火時, 噴火後の諸現象と火山災害・火山土砂災害
			安田 浩保	准教授	災害・復興科学研究所	治水と環境の両者に配慮した数理的な河川工学の確立への挑戦
			渡部 直喜	准教授	災害・復興科学研究所	斜面災害における水文地球化学的アプローチ

<教育研究高度化センター>

所 属 教 員	職 名	所 属	研 究 内 容
野中 敏	教授	自然科学系(院自然)	急速なグローバル化の中での地方の中小製造業のあり方、地方創生に向けた地方行政の中小企業振興施策、さらには地方創生における地方大学の役割についての調査研究

入学願書記入上の注意
(※入学願書記入の前に必ずご参照ください)

- 1 該当する番号又は事項を○で囲んでください。
- 2 ※欄は、記入しないでください。
- 3 年齢は、2018年（平成30年）4月1日現在の満年齢を記入してください。
- 4 志望する専攻・コースは、59ページの専攻・コースの概要を参照し、記入してください。
- 5 次に記載の専攻等に出願する者（社会人特別入試の志願者を除く。）は、受験する専門科目欄に受験する専門科目名を記入してください。

（次に記載の専攻等以外に出願する者及び社会人特別入試の志願者は、この欄に斜線を引いてください。）

○ 受験する専門科目名を記入する専攻・コース

- ・ 材料生産システム専攻の機能材料科学コースのうち専門科目「材料科学（開発系）」
- ・ 材料生産システム専攻の素材生産科学コースのうち専門科目「応用化学」
- ・ 生命・食料科学専攻の応用生命・食品科学コース
- ・ 生命・食料科学専攻の生物資源科学コース
- ・ 環境科学専攻の流域環境学コース

※（入学願書志望欄記入例）

材料生産システム専攻の機能材料科学コースの専門科目「材料科学（開発系）」の電気化学・物理化学を選択（受験）する場合

専攻	コース	系
材料生産システム	機能材料科学	開発系

受験する専門科目	電気化学・物理化学
----------	-----------

（注） 外国人留学生特別入試志願者は、志望するコースの連絡先教員にお問い合わせください。

- 6 「口述試験」受験希望の有無欄は、10ページを参照し、記入してください。
- 7 上記1・2及び5は、受験票・写真票・履歴書についても同様です。
- 8 履歴事項は、入学願書裏面に記入してください。
- 9 連絡先は、緊急の際に必要としますので記入してください。